北海道大学

大学院医学研究院
大学院医学院
医学部医学科

HOKKAIDO UNIVERSITY
Faculty of Medicine
Graduate School of Medicine
School of Medicine

概 要

2025-2026

挨　拶

北海道大学医学部は、1919 年に北海道帝国大学医学部として設置されました。2019 年に創立百周年を迎えた我が国屈指の歴史と伝統を誇る医学部です。これまで約 1 万名の卒業生を輩出し、現在、約 6,500 名の同窓生が、日本全国そして世界各地で医師・医学研究者等として活躍しています。

医学部医学科における教育では、5、6 年次における臨床実習の充実化を図るため 2017 年から全道の約 50 病院の協力を得て、診療参加型臨床実習をスタートさせました。また、医学教育改革を推進するため、学生も参画する「カリキュラム委員会」を創設し、学生と教員が一体となった双方向の教育システム改革を進めています。2022 年 10 月には日本医学教育評価機構から医学教育国際基準に適合しているとの認定を受けました。医学部医学科の教育の質を外部機関から認定されることは、本学学生の海外派遣事業のさらなる推進や卒業後の海外での医療活動の推進に重要です。

大学院における教育については、1955 年に大学院医学研究科が設置されました。「研究科」は教育組織と研究組織が一体の組織体です。一方、国立大学法人化後の本学では、変化する社会情勢や学生の指向に有機的に対応するグローバルな大学院教育システムとして、大学院生が所属する「学院」と教員が所属する「研究院」を独立して設置し、相互に連携させる制度が整備されて、医学研究科は 2017 年に「医学院」と「医学研究院」の 2 つの独立した組織体へと改組されました。

医学院の大学院生は、医学研究院や学内の他の研究院所属の教員が一丸となって実践している世界最先端の医学研究を通じた研究指導を受けることができます。これは、医学院の大学院生に対し良質な教育環境を提供するだけでなく、医学院と医学研究院双方の発展に繋がるものです。医学院の教育において、医学研究院での最先端研究の遂行は不可欠なものであり、医学院の掲げる「世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する」という理念に資するものでもあります。最先端の研究を進める医学研究院所属の教員のもとで大学院生が教育を受けることで、医学院の教育目標「医学・生命科学に関する高度な知識と研究能力を備え、社会の要請に応える高い見識を備えた人材を育成する」を達成することが期待できます。

大学を取り巻く社会環境の激変のなか、教育・研究・診療の将来展望を見据え、医学研究院・医学院のさらなる発展を目指し、本学が目指す知を深めるエクセレンス（卓越性）、社会と連携するエクステンション（社会展開力）の実践に貢献していきます。

北海道大学
大学院医学研究院長
大学院医学院長
医学部長

田中　伸哉
TANAKA Shinya

目　次

●挨　拶 …… 1
●目　次 …… 2
●沿　革 …… 3・4
●理念・目標 …… 5〜10
理念・目標
入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）
学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
教育課程編成･実施の方針（カリキュラム･ポリシー）
学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）
●歴代特別職
歴代医学部長／歴代医学研究科長／ …… 11
歴代医学研究院長／歴代医学院長
歴代医学部附属医院・病院長／ …… 12
歴代北海道大学病院長
●名誉教授 …… 13
●栄　誉 …… 14
●組織・財政
組織図
大学院医学研究院 …… 15
大学院医学院 …… 15
医学部 …… 16
医学系事務部 …… 16
役職員 …… 17
教職員数 …… 18
組織構成 …… 18
教室一覧
大学院医学研究院 …… 19
大学院医学院 …… 20
医学研究院および医学院教室等　主要研究内容 …… 21〜27
センター・施設
連携研究センター「フラテ」 …… 28
医学教育・国際交流推進センター …… 29・30
附属動物実験施設 …… 31
医学研究院・医学院・医学部図書館 …… 31
北海道大学医歯学総合研究棟 …… 32
医系多職種連携教育研究棟 …… 32
北海道大学病院 …… 33
医理工学グローバルセンター …… 34
教育研究支援
広報室 …… 35
研究戦略室 …… 35
広　報
プレスリリース …… 35・36
2024 年度　収入・支出総額 …… 37
外部資金受入／科学研究費助成事業等 …… 37・38
●学　生
学生数 …… 39
入学状況 …… 39
卒業・修了者数（学位授与数） …… 40
進路状況 …… 40
医師国家試験合格状況 …… 40
医学部医学科　学友会活動 …… 41・42
●国際交流
外国人留学生数 …… 43
国際交流協定締結状況 …… 44
●寄附分野等の実施状況
寄附分野 …… 45
産業創出分野 …… 45
●教育・研究体制
大学院医学院医科学専攻　修士課程 …… 46
大学院医学院医学専攻　博士課程 …… 46
博士課程における特別プログラム …… 47・48
大学院医学院における経済支援 …… 49
医学部医学科　履修コース …… 50
医学研究院の産学連携研究 …… 51
教育・研究プログラム …… 52・53
解剖実績 …… 54
オートプシーイメージング（Ai）実績 …… 54
●キャンパス
土地・建物 …… 55
建物配置図 …… 55
各棟・各階概要 …… 56
札幌キャンパス施設配置図 …… 57
アクセス …… 58

沿革

2025年7月1日現在

■設置改廃関係
●歴代医学部長 医学研究科長 医学研究院長 医学院長 病院長関係
▶その他

大正 8(1919)年 4月 1日 ■北海道帝国大学医学部設置

大正10(1921)年 4月22日 ■医学部附属医院設置
5月17日 ●秦 勉造 医学部長・附属医院長に就任
10月 1日 ■医学部附属医院産婆養成所設置
10月 8日 ●有馬英二 附属医院長に就任

大正14(1925)年 3月14日 ●越智貞見 附属医院長に就任
10月 7日 ●今 裕 医学部長に就任

昭和 4(1929)年 3月13日 ●香宗我部寿 附属医院長に就任
3月31日 ●山崎春雄 医学部長に就任

昭和 6(1931)年 3月10日 ●中村 豊 医学部長に就任
3月11日 ●大野精七 附属医院長に就任
10月17日 ▶医学部開学10周年記念式典を挙行

昭和 8(1933)年 3月10日 ●三輪 誠 医学部長に就任
3月11日 ●永井一夫 附属医院長に就任
10月31日 ●山上熊郎 医学部長に就任

昭和10(1935)年12月16日 ●大野精七 医学部長に就任
12月17日 ●志賀 亮 附属医院長に就任

昭和12(1937)年12月16日 ●山崎春雄 医学部長に就任
12月17日 ●中川 諭 附属医院長に就任

昭和14(1939)年 5月15日 ■臨時附属医学専門部設置
12月16日 ●中村 豊 医学部長に就任
12月17日 ●柳 壮一 附属医院長に就任

昭和16(1941)年12月13日 ●真崎健夫 医学部長に就任
●西川義英 附属医院長に就任

昭和18(1943)年 3月31日 ●永井一夫 附属医院長に就任
12月13日 ●児玉作左衛門 医学部長に就任
●中川 諭 附属医院長に就任

昭和20(1945)年 6月16日 ■医学部附属医院看護婦養成施設(厚生女学部)設置
12月28日 ●井上善十郎 医学部長に就任
●猿渡二郎 附属医院長に就任

昭和22(1947)年 ▶医学部開講25周年記念式典を挙行
10月 1日 ■北海道帝国大学が北海道大学となる
12月28日 ●柳 壮一 医学部長に就任
●岩下健三 附属医院長に就任

昭和24(1949)年 5月31日 ■国立学校設置法公布、北海道大学医学部が定められる
■医学部附属病院、附属病院登別分院、看護婦養成施設設置
12月28日 ●安田守雄 医学部長に就任
●奥田義正 附属病院長に就任

昭和25(1950)年 3月31日 ■附属医学専門部廃止

昭和26(1951)年12月28日 ●山田豊治 附属病院長に就任

昭和28(1953)年12月28日 ●安保 寿 医学部長に就任
●三上二郎 附属病院長に就任

昭和29(1954)年 4月 1日 ■医学部薬学科設置

昭和30(1955)年 4月 1日 ■北海道大学大学院医学研究科設置
●安保 寿 医学研究科長に就任
8月 3日 ■医学研究科に生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系の各博士課程設置
12月28日 ●高杉年雄 附属病院長に就任

昭和31(1956)年 4月 1日 ■医学部附属診療エックス線技師学校、医学部附属温泉治療研究施設設置

昭和32(1957)年12月28日 ●武田勝男 医学部長・医学研究科長に就任
●小川玄一 附属病院長に就任

昭和33(1958)年 4月 1日 ■北海道大学大学院薬学研究科設置

昭和36(1961)年12月28日 ●安保 寿 医学部長・医学研究科長に就任
●藤山英寿 附属病院長に就任

昭和37(1962)年 4月 1日 ■医学部附属癌免疫病理研究施設設置

昭和38(1963)年12月28日 ●安倍三史 医学部長・医学研究科長に就任
●諏訪 望 附属病院長に就任

昭和40(1965)年 4月 1日 ■北海道大学薬学部設置(医学部薬学科が分離独立)
12月28日 ●島 啓吾 附属病院長に就任

昭和41(1966)年 4月 1日 ■医学部附属衛生検査技師学校設置

昭和42(1967)年12月28日 ●諏訪 望 医学部長・医学研究科長に就任
●若林 勝 附属病院長に就任

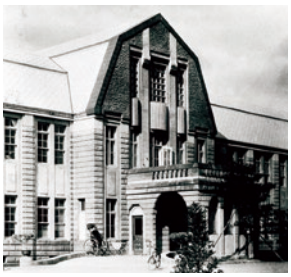
昭和44(1969)年 ▶医学部創立50周年記念式典(大学紛争により式典中止)
4月 1日 ■医学部附属癌研究施設設置
11月20日 ●田辺恒義 医学部長・医学研究科長に就任
●山田尚達 附属病院長に就任

昭和45(1970)年 5月 1日 ●高桑榮松 医学部長・医学研究科長に就任
●三浦祐晶 附属病院長に就任

昭和46(1971)年 6月30日 ●山田尚達 附属病院長に就任
7月17日 ●三浦祐晶 附属病院長に就任

昭和47(1972)年 5月 1日 ■医学部附属動物実験施設設置

旧医学部本館（1960年代）


医学部附属医院本館（1930年代）

北海道大学病院（現在）

昭和51(1976)年 1月10日 ●松野正彦　医学部長・医学研究科長に就任
●白石忠雄　附属病院長に就任

昭和52(1977)年 5月 6日 ●恩村雄太　医学部長・医学研究科長に就任

昭和53(1978)年 1月10日 ●杉江三郎　附属病院長に就任

昭和54(1979)年 6月 2日 ▶医学部創立60周年式典を挙行

昭和55(1980)年 1月10日 ●辻　一郎　附属病院長に就任
10月 1日 ■北海道大学医療技術短期大学部設置

昭和56(1981)年 7月16日 ●三浦祐晶　医学部長・医学研究科長に就任

昭和57(1982)年 1月10日 ●松野誠夫　附属病院長に就任

昭和58(1983)年 7月16日 ●相沢　幹　医学部長・医学研究科長に就任

昭和61(1986)年 1月10日 ●寺山吉彦　附属病院長に就任

昭和62(1987)年 7月16日 ●廣重　力　医学部長・医学研究科長に就任
●松宮英視　附属病院長に就任

平成元(1989)年 4月 1日 ●田邉達三　附属病院長に就任

平成 3(1991)年 4月 1日 ●宮崎　保　附属病院長に就任
5月 1日 ●田邉達三　医学部長・医学研究科長に就任

平成 5(1993)年 4月 1日 ●齋藤和雄　医学部長・医学研究科長に就任
●大浦武彦　附属病院長に就任
10月12日 ■医学部附属病院新病棟竣工

平成 6(1994)年 6月24日 ■医学部附属温泉研究施設廃止
10月 8日 ▶医学部創立75周年記念式典を挙行

平成 7(1995)年 4月 1日 ●阿部　弘　附属病院長に就任

平成 8(1996)年 5月11日 ■医学部附属病院登別分院廃止

平成 9(1997)年 4月 1日 ●井上芳郎　医学部長・医学研究科長に就任
●川上義和　附属病院長に就任

平成10(1998)年 4月 9日 ■大学院医学研究科に生体機能学専攻、脳科学専攻設置

平成11(1999)年 4月 1日 ■大学院医学研究科に高次診断治療学専攻、社会医学専攻設置
●藤本征一郎　附属病院長に就任

平成12(2000)年 4月 1日 ■大学院医学研究科に病態制御学専攻、癌医学専攻設置、大学院講座制に移行(大学院重点化)
■遺伝子病制御研究所設置(医学部附属癌研究施設と免疫科学研究所を改組統合)

平成13(2001)年 4月 1日 ●西　信三　医学部長・医学研究科長に就任
●加藤紘之　附属病院長に就任

平成14(2002)年 4月 1日 ■大学院医学研究科に医科学専攻(修士課程)設置

平成15(2003)年 4月 1日 ●杉原平樹　附属病院長(10月より病院長)に就任
10月 1日 ■医学部保健学科設置
■医学部附属病院と歯学部附属病院を北海道大学病院に統合

平成16(2004)年 1月30日 ■大学院医学研究科南研究棟竣工(改修)
2月27日 ■医歯学総合研究棟竣工
4月 1日 ■北海道大学が国立大学法人北海道大学となる

平成17(2005)年 3月10日 ■大学院医学研究科東南研究棟完成(改修)
4月 1日 ●本間研一　医学部長・医学研究科長に就任
●宮坂和男　病院長に就任

平成19(2007)年 4月 1日 ■大学院医学研究科の 6 専攻を医学専攻に統合
●浅香正博　病院長に就任
7月13日 ■大学院医学研究科東北研究棟完成(改修)

平成20(2008)年 3月28日 ■大学院医学研究科北研究棟完成(改修)

平成21(2009)年 3月27日 ■大学院医学研究科中研究棟完成(改修)
4月 1日 ●安田和則　医学部長・医学研究科長に就任
8月13日 ■医学研究科・医学部図書館完成(改修)
10月12日 ▶医学部創立90周年記念式典を挙行

平成22(2010)年 4月 1日 ●福田　諭　病院長に就任
7月 9日 ■医学部学友会館「フラテ」完成

平成23(2011)年 4月 1日 ●玉木長良　医学部長・医学研究科長に就任

平成25(2013)年 4月 1日 ●笠原正典　医学部長・医学研究科長に就任
●寶金清博　病院長に就任

平成26(2014)年 5月28日 ■大学院医学研究科附属動物実験施設完成(改修)

平成28(2016)年 1月15日 ■医系多職種連携教育研究棟完成(改修)

平成29(2017)年 4月 1日 ■大学院医学研究科が大学院医学研究院・医学院に改組された
●吉岡充弘　医学部長・医学研究院長・医学院長に就任

平成31(2019)年 4月 1日 ●秋田弘俊　病院長に就任

令和元(2019)年 9月20日 ■医学部百年記念館完成
10月12日 ▶医学部創立100周年記念式典を挙行

令和 3(2021)年 4月 1日 ●畠山鎮次　医学部長・医学研究院長・医学院長に就任

令和 4(2022)年 4月 1日 ●渥美達也　病院長に就任

令和 7(2025)年 4月 1日 ●田中伸哉　医学部長・医学研究院長・医学院長に就任
●南須原康行　病院長に就任

詳細は医学部webサイトをご覧ください
https://www.med.hokudai.ac.jp/general/history.html

東北研究棟

医学部管理棟

附属動物実験施設

理念・目標

理　念

世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する。

教育目標と行動目標

■ 教育目標

医学・生命科学に関する高度な知識と研究能力を備え、社会の要請に応える高い見識を備えた人材を育成する。

■ 行動目標

1．高度に専門的な医学・生命科学の知識と研究能力を備えることで、疑問や仮説を科学的に深く追究する探究心を育む。
2．世界をリードする先端医学研究を国際的に推進する能力を習得する。
3．健康・安全に関する地域社会、国際社会の多様かつ広範な要請に応える能力と見識を培う。
4．倫理性豊かな人材として活躍するために、命の尊厳を敬う心を涵養する。

研究目標と行動目標

■ 研究目標

基幹総合大学として国際レベルの研究を推進し、知のフロンティアを切り拓き人類の福祉に貢献する。

■ 行動目標

1. 独創的、先駆的基礎研究の発展に寄与する。
2. 社会に役立つ実学として臨床医学、社会医学を推進する。
3. 基礎から臨床までの橋渡し研究を遂行する。
4. 総合大学の特色を生かし、学内関連部局、国内外の大学・研究機関、産業界と連携しつつ、世界レベルの医学研究を推進する。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

医学院では次のような学生を求めています

1. 生命現象の解明、疾病の克服、人類の健康の増進に向けて真摯に研究に取り組むことのできる人
2. 知的好奇心に富み、論理的な分析力、粘り強い行動力や協調性を有し、医学領域各分野において国際的なリーダーとして活躍できる人
3. 入学前に外国語（英語）の基礎的読解力と作文能力を身につけている人

医学院の入学者選抜の基本方針は次のとおりです
一般選抜試験では、学力試験および出願書類等を総合して判定します。
外国人留学生特別選抜試験では、口述試験および出願書類を総合して判定します。

〈評価方法と評価比重および求める学生像と評価方法の関係性〉

（修士）

入試区分	評価方法	評価比重	上記１に係る事項	上記２に係る事項	上記３に係る事項
一般選抜	課題論文	◎	✔	✔	
	専門科目試験	◎	✔	✔	
	外国語試験	◎			✔
	出願書類	○	✔	✔	
一般選抜（公衆衛生学コース２年コース）	課題論文	◎	✔	✔	
	専門科目試験	◎	✔	✔	
	外国語試験	◎			✔
	出願書類	○	✔	✔	
一般選抜（公衆衛生学コース１年コース）	課題論文	◎	✔	✔	
	専門科目試験	◎	✔	✔	
	外国語試験	◎			✔
	口述試験	◎	✔	✔	
	出願書類	○	✔	✔	
外国人留学生特別選抜	口述試験	◎	✔	✔	✔
	出願書類	○	✔	✔	

（博士）

入試区分	評価方法	評価比重	上記１に係る事項	上記２に係る事項	上記３に係る事項
一般選抜	専門科目試験	◎	✔	✔	
	外国語試験	◎			✔
	出願書類	○	✔	✔	
外国人留学生特別選抜	口述試験	◎	✔	✔	✔
	出願書類	○	✔	✔	✔

◎は特に重視する要素
○は重視する要素
✔は各評価方法において評価する求める学生像

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医学院では、本学の４つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、医学・生命科学に関する高い倫理観および高度な専門的知識と研究および教育能力を備えた人材の育成、ならびに健康および安全に対する多様かつ広範な地域社会または国際社会の要請に応えることのできる広くかつ高い見識を備えた人材の育成をはかることを教育目標としています。

医学院では、この目標とする人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）を修士課程と博士課程において定め、当該能力を身に付け、かつ、所定の単位を修得し、学位論文の審査および試験に合格した者に修士または博士の学位を授与します。

医科学専攻修士課程

●修士（医科学）を授与する者

医学・生命科学に関連する研究の背景を理解し、生物学的重要性のある研究テーマや検証すべき仮説を立証するとともに、その妥当性を検証し得られた（実験・調査）結果を適切に分析することにより、新たなテーマや仮説を立案して持続的に医学・生命科学研究領域の発展に寄与する能力を身に付け、かつ、所定の単位を修得し、学位論文の審査および試験に合格した者に「修士（医科学）」の学位を授与します。

●修士（公衆衛生学）を授与する者

社会全体および人々の健康と生活・安全に必要な仕組みを理解し、公衆衛生学上又は予防医学上の諸課題の解決に必要な情報の収集・分析により、健康の維持増進に向けた対策を立案するとともに、これを円滑に実施し、得られた結果を適切に評価することにより、新たな課題を次の対策につなげて持続的に公衆衛生学領域の発展に寄与する能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査および試験に合格した者に「修士（公衆衛生学）」の学位を授与します。

医科学専攻修士課程の学位授与水準

医科学専攻では、医学院の教育目標に基づき、医学・生命科学領域の研究者や教育者として、医療関連分野の高度専門職業人として、あるいは保健医療や保健政策マネジメントなどの専門家として、それぞれの領域において貢献をなす活動を将来独自で行えるための基礎的知識と基礎的技能を有した人材の育成を目標としており、次の能力を持つと認められる者に対し、修士の学位を授与します。

(1) 自己の研究に関連する先行知識と知見を理解するとともに、これを適切かつ正当に評価し、自らの表現において論述することができる。
(2) 研究の立案、科学的データの収集と解析、科学的データに基づいた論理的思考などを行う能力を備え、すべての実験や観察は誤差を含むことを理解し、結果の信頼性・再現性に対する科学者としての基本的態度を十分に身に付けている。
(3) 学会等の公的な研究発表の場で、自己の研究成果を発表し議論する能力・技能を備えている。
(4) 学術雑誌等に掲載される程度の内容と形式を備えた論文を執筆できる力を備えている。

医学専攻博士課程

医学専攻博士課程の学位授与水準

医学専攻では、医学に関連する研究の背景や状況を的確に把握し、学術的かつ国際的に重要性のある研究テーマや検証すべき仮説を立案するとともに、その妥当性を検証することにより、新たなテーマや仮説を立案して持続的に基盤医学、臨床医学又は社会医学研究領域の発展に寄与する以下に掲げる能力を身に付け、かつ所定の単位を修得し、学位論文の審査および試験に合格した者に「博士（医学）」の学位を授与します。

(1) 自己の研究に関連する先行知識と知見を理解するとともに、これを適切かつ正当に評価し、自らの表現において論述することができる。
(2) 研究の立案、科学的データの収集と解析、科学的データに基づいた論理的思考などを行う能力を備え、すべての実験や観察は誤差を含むことを理解し、結果の信頼性・再現性に対する科学者としての基本的態度を十分に身に付けている。
(3) 国内外を問わず学会等の公的な研究発表の場で、自己の研究成果を発表し議論する能力・技能を備えている。
(4) 学術雑誌または独自の著作等において、当該研究分野または社会に有意義な貢献をする論文を執筆する能力・技能を備えている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学院は、「高い倫理観と豊かな人間性の涵養と高度な医学知識および技術の修得」を教育理念とし、これまでの学問領域の枠を越え、互いに関連する分野の基礎的知識・技術の修得をはかる融合教育を展開します。また、多様化した社会のニーズに対応した人材を育成するために、学修課題を複数の科目を通して体系的に履修するコースワークを導入し、学生は目的に応じた最善のコースを選択履修します。すなわち、医学院機能における〔目的の明確化〕と〔教育の実質化〕を柱とした新時代の大学院教育を展開します。

医科学専攻修士課程の教育課程編成・実施の方針

医科学専攻では、人材育成の目的に応じた以下の 3 つの教育（履修）コースを設定し、本人の希望をもとに入学時からいずれかのコースに分属します。

1. 医科学コース

医学・生命科学領域の幅広い知識を持って活躍できる高度専門職業人の育成を目的とする。

2. 公衆衛生学コース（2 年コース）

社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とする。

3. 公衆衛生学コース（1 年コース）

医学的な素養と実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師・保健師などを対象として、社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とする。

履修する科目として、「共通コア科目」、「必修科目Ⅰ」、「必修科目Ⅱ」、「選択科目」を開講します。

共通コア科目は、大学院教育において基本となる素養の涵養を目的とした科目であり、全てのコースにおいて必修とします。この科目では、医学研究に関する基本的かつ体系的知識を提供する「基本医学研究概論」をはじめ、研究計画の立案、疫学や生物統計の基礎などを学ぶ「基本実験・研究計画法」、北海道大学の教育理念のひとつである全人教育を踏まえ、医学に携わる者として生命倫理観を涵養する「医倫理学序論」、基礎研究で得られた成果を臨床現場で新しい医療技術・医薬品として確立することを目的とした橋渡し研究の理解を促す「トランスレーショナルリサーチ概論」を開講します。

必修科目Ⅰは、各コースの専門性に特化した科目であり、それぞれのコースの教育目標に対応した科目を開講します。

必修科目Ⅱでは、研究データの統計的解析、プレゼンテーション技法の修得等を目的とした科目を開講します。更に、学生が入学後に配属される教室の研究指導教員が科目責任者となり、修士論文又は特定課題の研究成果の作成に必要な能力の涵養を目的とした実習を開講します。

選択科目では、コースを越えた幅広い視野や専門分野の枠を越えた専門的知識の修得を目的とした科目を開講します。

なお、「公衆衛生学コース」では、米国公衆衛生大学院協会の定める認定基準で必須とされる 5 領域（疫学、生物統計学、社会行動科学、保健医療管理学、環境保健学）の教育を行います。医学・理工学・人文社会科学を専門分野とする教員による学際的な教育体制により、公衆衛生学の専門家として求められる最低限の知識・能力の修得を目的とした基礎科目を必修科目Ⅰで開講するとともに、多様かつ広範な公衆衛生上の諸課題に関する専門的知識、情報収集能力、適格な判断力の養成を目的とした応用科目を選択科目で開講します。

●学修成果の評価の方法

Ⅰ 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる本専攻の「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学修成果の達成度に応じて行うこととする。
2. 本専攻における授業科目では成績分布の目安は示さない。
3. 授業を実習で行う科目に限り、「合・否」で成績評価を行うことができることとする。
4. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評価の結果を、学期ごとに教務委員会で検証し、必要に応じて担当教員に「到達目標」の再検討を依頼する。

Ⅱ 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行う。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはできない。
3. 授業回数の 2/3 以上出席した者を成績評価の対象とする。
4. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定める。

医学専攻博士課程の教育課程編成・実施の方針

医学専攻では、人材育成の目的に応じた以下の 3 つの教育（履修）コースを設定し、本人の希望をもとに入学時からいずれかのコースに分属します。

1. 基盤医学コース　医学・生命科学領域の研究者および教育者の育成を目的とする。

2. **臨床医学コース**　優れた臨床技術と研究能力を兼ね備えた臨床医等の育成を目的とする。
3. **社会医学コース**　地域社会や国際的なレベルの健康・安全へのニーズに応える事のできる人材を育成することを目的とする。

履修する科目には、「必修科目（共通コア科目）」、「必修科目」、「選択科目」を開講します。

共通コア科目は、医学院の大学院教育において、基本となる素養を涵養することを目的とする科目であり、すべてのコースにおいて必修科目として開講されます。医学研究に関する基本的かつ体系的知識を提供する医学研究概論（知的財産学など）をはじめ、実験・研究計画法は基本統計学などを学ぶものです。公開発表演習は、学位論文公開発表の場において、論文の口頭発表や質疑応答の技術の修得を、研究発表技法Ⅰ・Ⅱは、英語による口頭発表や論文作成の技術の修得を目的として開講されます。また、北海道大学の教育理念のひとつである「全人教育」を踏まえ、医学に携わるものとしての生命倫理観を涵養する医倫理学、基礎研究で得られた成果を臨床現場で新しい医療技術・医薬品として確立することを目的とした橋渡し研究の理解を促す「トランスレーショナルリサーチ概論」を開講します。なお、医学院修士課程を修了し、博士課程へ進学した者は共通コア科目４科目（医学研究概論、実験・研究計画法、医倫理学、トランスレーショナルリサーチ概論）については既修得単位として認定されます。

３コースから１コースを選択する必修科目は、コースに特化した科目で、それぞれのコースの教育目的に対応した科目として開講されます。当該専門研究分野の深い知識のみならず、当該専門分野に限定されない、幅広い知識の修得を目的としています。さらに、学位論文の作成に関連する研究活動を単位として認定し、その指導を強化するものです。

選択科目は単位選択の自由度を確保するもので、コースを越えた幅広い視野や当該専門分野の枠を越えた知識や技術の修得を目的として、開講されるものです。

●学修成果の評価の方針

Ⅰ 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる本専攻の「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学修成果の達成度に応じて行うこととする。
2. 本専攻における授業科目では成績分布の目安は示さない。
3. 授業を実習で行う科目に限り、「合・否」で成績評価を行うことができることとする。
4. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評価の結果を、学期ごとに教務委員会で検証し、必要に応じて担当教員に「到達目標」の再検討を依頼する。

Ⅱ 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行う。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはできない。
3. 授業回数の 2/3 以上出席した者を成績評価の対象とする。
4. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定める。

学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

目　的

(1) 医学院では「北海道大学アセスメント・ポリシー」に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された教育目標への到達度を高めるために教学アセスメントを実施する。

実施体制

(2) 医学院の教学アセスメント実施責任者は、学院長とする。
(3) 医学院の教学アセスメントは、医学院教務委員会において実施する。

実施および分析

(4) 医学院の教学アセスメントは、別に定めるアセスメント・チェックリストにより実施する。
(5) 評価結果を参考とした教育改革の内容は、積極的に公表する。
(6) 教学データの取り扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報等の保護につとめる。

■医学部医学科

理念・目標

理　念

世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する。

教育目標と行動目標

■ 教育目標

広範な医学知識、高い倫理観、豊かな人間性、国際的視野を備え、医学の進歩と医療の実践・発展に寄与する医師・医学研究者を養成する。

■ 行動目標

1．医師・医学研究者として活躍するための基礎をなす医学知識・技術を身につける。
2．生涯にわたり自ら学ぶ習慣と態度を身につける。
3．科学的な思考・判断能力と探究心に基づく創造性を養う。
4．医師・医学研究者に要求される高い倫理観と豊かな人間性を培う。
5．国際交流の重要性を理解し、それに必要な語学力、医学知識、教養を身につける。
6．医療におけるチームワークの重要性とその中での医師の役割を理解する。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

1．知識・技能
強い学習意欲と多様な科目を履修していく基礎学力をもつ学生

2．思考力･判断力･表現力
多様な事象に対し興味、理解力をもち、共感とともに批判する能力をもつ学生

3．主体性・多様性・協働性
積極性、堅実性とともに他者との協調性をもつ学生

4．使命感
高い倫理観と強い責任感、そして敬虔な奉仕の精神を持ち、謙虚で高潔な使命感にあふれる学生

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医学部では、本学の４つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、人類の健康増進に資するための体系的な教育を行うことにより、豊かな人間性、高い倫理観および国際的視野を備え、医学、医療又は生命科学の実践および発展に寄与する人材を養成することを教育目標としています。

医学部では、この目標とする人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）を学科毎に定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に学士の学位を授与します。

医学科の学位授与水準

医学科では、医学部の教育目標に基づき、①医を支える高い倫理観と豊かな人間性の陶冶、②高度な医学知識と技術の修得およびそれを維持する生涯学習を続ける態度・習慣の修得、③医療チームにおいて他の専門職と連携し、高度医療をおこなう協調性の修得、を教育理念として、次の能力をもつと認められる学生に対し、学士の学位を授与します。

(1) 医学・医療を支える高い倫理感を身につけている。
(2) 人間性を陶冶し患者のもつ悩み・不安・苦痛等に共感する態度を身につけている。
(3) 社会の発展に貢献する使命感と責任感を身につけている。
(4) 基礎的な医学知識・技術を身につけている。
(5) 科学的妥当性・探求心・創造性を身につけている。
(6) 生涯学習をつづける習慣・態度を身につけている。
(7) 医療におけるチームワークの重要性と、その中の医師の役割を理解している。
(8) 後輩に指導するとともに、自らも共に学ぶ態度を身につけている。
(9) 異文化との交流や国際交流の重要性を理解している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学部では、人類の健康増進に資するための体系的な教育を行うことにより、豊かな人間性、高い倫理観および国際的視野を備え、医学、医療又は生命科学の実践および発展に寄与する人材を養成する目的を達成するため、医学を学ぶ医学科と、看

護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学を学ぶ保健学科を設置し、専門家および研究者を養成する基礎となる体系的な教育を展開します。これらの学科では、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって、学士課程（医学科では6年間、保健学科では4年間）における教育課程を編成します。専門科目では、学科毎にカリキュラム・ポリシーを定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。

医学科の教育課程編成・実施の方針

医学部医学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。医学科の学生には、1年次は「医学教養コース」として全学教育科目を開講し、2年次から卒業までの5年間は専門科目を開講します。専門科目では、「基礎医学コース」「臨床医学コース」「臨床実習コース」の3コースを順番にすべて履修することが卒業の要件です。

1．医学教養コース（全学教育科目）

主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。

具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。

また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。

2．基礎医学コース

2年次1学期から3年次1学期までの1年半のコースです。このコースでは、人体の正常な構造と機能を学ぶ科目（解剖学、組織学、画像解剖学、生理学、生化学）と、病気の発症・進展のメカニズムおよび治療の基本原理を学ぶ科目（微生物学、免疫学、病理学、基礎応用腫瘍学、薬理学）を開講します。さらに、集団、環境、制度、予防の観点から健康や病気を学ぶ（衛生学、公衆衛生学、法医学）科目と、医学を学ぶ基礎となる科目（医学英語演習）も開講します。

3．臨床医学コース

3年次2学期から4年次1学期までの1年間のコースです。ここでは、様々な疾病を多面的に把握しつつ、患者さんをひとりの人間として理解し、診察や検査、診断、治療の基本を学びながら、内科学、外科学、専門医学などの臨床医学の基本を学ぶカリキュラムを編成し、実施します。また、1カ月間の医学研究演習では、研究室で実際の研究の方法や考え方を学び、基礎医学研究者や研究医となるための素養を磨く機会を提供します。

4年次1学期にコースが終わると、それまでに学んだ知識や技能を評価する全国共通の共用試験を実施します。

4．臨床実習コース

このコースでは2年間以上の長期間にわたり、臨床実習および関連する学習や試験等を実施します。

4年次2学期から5年次1学期までは、全ての診療科を少人数グループで回り、臨床の現場で医療スタッフとともに診療の一部に参加しながら、実際の診療の基礎を学ぶ実習です。この実習と並行して、臨床現場での課題や疑問を振り返りながら学ぶ臨床統合講義も開講します。社会医学の実習もこの時期に行います。

続く5年次2学期の6カ月間は、さらに少人数に分かれてスタッフの一員として全面的に診療に参加する形で、基本的な領域の診療科（コア科）を、大学病院や学外の医療機関で4週間ずつ学ぶ実習です。

6年次1学期には、3カ月間にわたり、各学生が興味や進路志望をもとに選択した診療科や分野で4週間ずつ学ぶ実習です。選抜された学生には、この期間等を利用して海外で実習する機会も用意しています。

6年次2学期には、このコースの仕上げとして、卒業後に役立つ実践的能力を身につける目的で、臨床病理学の講義や多職種連携・シミュレーション実習を開講します。6年次の2月には医師国家試験があります。

5年次からは、将来の基礎医学研究者や研究医を目指す学生のために MD-PhD コースも用意しています。

学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

目　的

(1) 医学部医学科では「北海道大学アセスメント・ポリシー」に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された教育目標への到達度を高めるために教学アセスメントを実施する。

実施体制

(2) 医学部医学科の教学アセスメント実施責任者は、学部長とする。
(3) 医学部医学科の教学アセスメントは、医学科教務委員会において実施する。

実施および分析

(4) 医学部医学科の教学アセスメントは、別に定めるアセスメント・チェックリストにより実施する。
(5) 評価結果を参考とした教育改革の内容は、積極的に公表する。
(6) 教学データの取り扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報等の保護につとめる。

歴代医学部長

2025年7月1日現在

氏名	在任年月日	備考
秦　勉造	1921年 5月17日～1925年10月 6日	
今　裕	1925年10月 7日～1929年 3月30日	1937年12月総長就任
山崎春雄	1929年 3月31日～1931年 3月 9日	
中村　豊	1931年 3月10日～1933年 3月 9日	
三輪　誠	1933年 3月10日～1933年10月30日	
山上熊郎	1933年10月31日～1935年12月15日	
大野精七	1935年12月16日～1937年12月15日	
山崎春雄	1937年12月16日～1939年12月15日	
中村　豊	1939年12月16日～1941年12月12日	
真崎健夫	1941年12月13日～1943年12月12日	
児玉　作左衛門	1943年12月13日～1945年12月27日	
井上善十郎	1945年12月28日～1947年12月27日	
柳　壮一	1947年12月28日～1949年12月27日	
安田守雄	1949年12月28日～1953年12月27日	
安保　寿	1953年12月28日～1957年12月27日	
武田勝男	1957年12月28日～1961年12月27日	
安保　寿	1961年12月28日～1963年12月27日	
安倍三史	1963年12月28日～1967年12月27日	
諏訪　望	1967年12月28日～1969年11月19日	
田辺恒義	1969年11月20日～1970年 4月30日	（事務取扱）
高桑榮松	1970年 5月 1日～1972年 1月 9日	（事務取扱）
高桑榮松	1972年 1月10日～1976年 1月 9日	
松野正彦	1976年 1月10日～1977年 5月 6日	
恩村雄太	1977年 5月 6日～1977年 7月15日	（事務取扱）
恩村雄太	1977年 7月16日～1981年 7月15日	
三浦祐晶	1981年 7月16日～1983年 7月15日	
相沢　幹	1983年 7月16日～1987年 7月15日	
廣重　力	1987年 7月16日～1991年 4月30日	1991年5月学長就任（1992年から総長）
田邉達三	1991年 5月 1日～1993年 3月31日	
齋藤和雄	1993年 4月 1日～1997年 3月31日	
井上芳郎	1997年 4月 1日～2001年 3月31日	
西　信三	2001年 4月 1日～2005年 3月31日	
本間研一	2005年 4月 1日～2009年 3月31日	
安田和則	2009年 4月 1日～2011年 3月31日	
玉木長良	2011年 4月 1日～2013年 3月31日	
笠原正典	2013年 4月 1日～2017年 3月31日	2020年6月総長代行就任
吉岡充弘	2017年 4月 1日～2021年 3月31日	
畠山鎮次	2021年 4月 1日～2025年 3月31日	
田中伸哉	2025年 4月 1日～現在	

歴代医学研究科長

氏名	在任年月日	備考
安保　寿	1955年 4月 1日～1957年12月27日	
武田勝男	1957年12月28日～1961年12月27日	
安保　寿	1961年12月28日～1963年12月27日	
安倍三史	1963年12月28日～1967年12月27日	
諏訪　望	1967年12月28日～1969年11月19日	
田辺恒義	1969年11月20日～1970年 4月30日	（事務取扱）
高桑榮松	1970年 5月 1日～1972年 1月 9日	（事務取扱）
高桑榮松	1972年 1月10日～1976年 1月 9日	
松野正彦	1976年 1月10日～1977年 5月 6日	
恩村雄太	1977年 5月 6日～1977年 7月15日	（事務取扱）
恩村雄太	1977年 7月16日～1981年 7月15日	
三浦祐晶	1981年 7月16日～1983年 7月15日	
相沢　幹	1983年 7月16日～1987年 7月15日	
廣重　力	1987年 7月16日～1991年 4月30日	1991年5月学長就任（1992年から総長）
田邉達三	1991年 5月 1日～1993年 3月31日	
齋藤和雄	1993年 4月 1日～1997年 3月31日	
井上芳郎	1997年 4月 1日～2001年 3月31日	
西　信三	2001年 4月 1日～2005年 3月31日	
本間研一	2005年 4月 1日～2009年 3月31日	
安田和則	2009年 4月 1日～2011年 3月31日	
玉木長良	2011年 4月 1日～2013年 3月31日	
笠原正典	2013年 4月 1日～2017年 3月31日	2020年6月総長代行就任

歴代医学研究院長

氏名	在任年月日	備考
吉岡充弘	2017年 4月 1日～2021年 3月31日	
畠山鎮次	2021年 4月 1日～2025年 3月31日	
田中伸哉	2025年 4月 1日～現在	

歴代医学院長

氏名	在任年月日	備考
吉岡充弘	2017年 4月 1日～2021年 3月31日	
畠山鎮次	2021年 4月 1日～2025年 3月31日	
田中伸哉	2025年 4月 1日～現在	

歴代医学部附属医院・病院長

氏　名	在任年月日	備　考
秦　勉造	1921年 5月17日～1921年10月 7日	（事務取扱）
有馬英二	1921年10月 8日～1925年 3月13日	
越智貞見	1925年 3月14日～1929年 3月12日	
香宗我部　寿	1929年 3月13日～1931年 3月10日	
大野精七	1931年 3月11日～1933年 3月10日	
永井一夫	1933年 3月11日～1935年12月16日	
志賀　亮	1935年12月17日～1937年12月16日	
中川　諭	1937年12月17日～1939年12月16日	
柳　壮一	1939年12月17日～1941年12月12日	
西川義英	1941年12月13日～1943年 3月30日	
永井一夫	1943年 3月31日～1943年12月12日	
中川　諭	1943年12月13日～1945年12月27日	
猿渡二郎	1945年12月28日～1947年12月27日	
岩下健三	1947年12月28日～1949年12月27日	
奥田義正	1949年12月28日～1951年12月27日	
山田豊治	1951年12月28日～1953年12月27日	
三上二郎	1953年12月28日～1955年12月27日	
高杉年雄	1955年12月28日～1957年12月27日	
小川玄一	1957年12月28日～1961年12月27日	
藤山英寿	1961年12月28日～1963年12月27日	
諏訪　望	1963年12月28日～1965年12月27日	
島　啓吾	1965年12月28日～1967年12月27日	

氏　名	在任年月日	備　考
若林　勝	1967年12月28日～1969年11月19日	
山田尚達	1969年11月20日～1970年 4月30日	（事務取扱）
三浦祐晶	1970年 5月 1日～1971年 6月29日	（事務取扱）
山田尚達	1971年 6月30日～1971年 7月16日	（事務取扱）
三浦祐晶	1971年 7月17日～1972年 1月 9日	（事務取扱）
三浦祐晶	1972年 1月10日～1976年 1月 9日	
白石忠雄	1976年 1月10日～1978年 1月 9日	
杉江三郎	1978年 1月10日～1980年 1月 9日	
辻　一郎	1980年 1月10日～1982年 1月 9日	
松野誠夫	1982年 1月10日～1986年 1月 9日	
寺山吉彦	1986年 1月10日～1987年 4月30日	
松宮英視	1987年 5月 1日～1987年 7月15日	（事務取扱）
松宮英視	1987年 7月16日～1989年 3月31日	
田邉達三	1989年 4月 1日～1991年 3月31日	
宮崎　保	1991年 4月 1日～1993年 3月31日	
大浦武彦	1993年 4月 1日～1995年 3月31日	
阿部　弘	1995年 4月 1日～1997年 3月31日	
川上義和	1997年 4月 1日～1999年 3月31日	
藤本征一郎	1999年 4月 1日～2001年 3月31日	
加藤紘之	2001年 4月 1日～2003年 3月31日	
杉原平樹	2003年 4月 1日～2003年 9月30日	

1949年5月31日より医学部附属病院長

歴代北海道大学病院長

氏　名	在任年月日	備　考
杉原平樹	2003年10月 1日～2005年 3月31日	
宮坂和男	2005年 4月 1日～2007年 3月31日	
浅香正博	2007年 4月 1日～2010年 3月31日	
福田　諭	2010年 4月 1日～2013年 3月31日	
寶金清博	2013年 4月 1日～2019年 3月31日	2020年10月 総長就任
秋田弘俊	2019年 4月 1日～2022年 3月31日	
渥美達也	2022年 4月 1日～2025年 3月31日	
南須原康行	2025年 4月 1日～現在	

名誉教授

2025年7月1日現在

氏名	在職中担当講座等	授与年月日
小林　博	癌研究施設病理部門	1991年4月1日
中川昌一	内科学第二講座	1992年4月1日
牧田　章	癌研究施設生化学部門	1994年4月1日
大浦武彦	形成外科学講座	1995年4月1日
加藤正道	生理学第二講座	1996年4月1日
齋藤和雄	衛生学講座	1998年4月1日
大河原　章	皮膚科学講座	1999年4月1日
川上義和	内科学第一講座	2000年4月1日
阿部　弘	神経病態学講座／脳神経外科学分野	2000年4月1日
本間行彦	保健診療所	2000年4月1日
阿部和厚	生体機能構造学講座／生体機能形態学分野	2002年4月1日
皆川知紀	病態解析学講座／感染制御学分野	2003年4月1日
小柳知彦	外科治療学講座／腎泌尿器外科学分野	2003年4月1日
田代邦雄	神経病態学講座／神経内科学分野	2003年4月1日
石橋輝雄	分子生化学講座／分子医化学分野	2004年4月1日
吉木　敬	病態解析学講座／分子病理学分野	2004年4月1日
加藤紘之	癌診断治療学講座／腫瘍外科学分野	2004年4月1日
宮坂和男	病態情報学講座／放射線医学分野	2007年4月1日
櫻井恒太郎	社会医療管理学講座／医療情報学分野	2008年4月1日
大野重昭	感覚器病学講座／眼科学分野	2008年4月1日
本間研一	生理学講座／時間生理学分野	2010年4月1日
福島菊郎	生理学講座／認知行動学分野	2010年4月1日
岸　玲子	予防医学講座／公衆衛生学分野	2010年4月1日
前沢政次	社会医療管理学講座／医療システム学分野	2010年4月1日
佐々木文章	外科学講座／小児外科学分野	2010年4月1日
川口秀明	病理学講座／病態医科学分野	2011年4月1日
小池隆夫	内科学講座／免疫・代謝内科学分野	2011年4月1日
浅香正博	内科学講座／消化器内科学分野	2011年4月1日
藤堂　省	外科学講座／消化器外科・一般外科学分野	2011年4月1日
三浪明男	機能再生医学講座／整形外科学分野	2011年4月1日
小山　司	神経病態学講座／精神医学分野	2011年4月1日
玉城英彦	予防医学講座／国際保健医学分野	2012年4月1日
今村雅寛	内科学講座／血液内科学分野	2012年4月1日
鐙　邦芳	機能再生医学講座／体幹支持再建医学分野	2012年4月1日

氏名	在職中担当講座等	授与年月日	
野々村克也	外科学講座／腎泌尿器外科学分野	2013年4月1日	
武藏　学	保健センター	2013年4月1日	
瀬谷　司	微生物学講座／免疫学分野	2014年4月1日	
三輪聡一	薬理学講座／細胞薬理学分野	2015年4月1日	
藤田博美	社会医学講座／衛生学・細胞予防医学分野	2015年4月1日	
水上尚典	生殖・発達医学講座／産科・生殖医学分野	2015年4月1日	
櫻木範明	生殖・発達医学講座／生殖内分泌・腫瘍学分野	2015年4月1日	
福田　諭	感覚器病学講座／耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	2015年4月1日	
西村正治	内科学講座／呼吸器内科学分野	2016年4月1日	
玉木長良	病態情報学講座／核医学分野	2016年4月1日	
丸藤　哲	侵襲制御医学講座／救急医学分野	2016年4月1日	
有賀　正	生殖・発達医学講座／小児科学分野	2016年4月1日	
安田和則	機能再生医学講座／運動機能再建医学分野	2017年4月1日	
有川二郎	微生物学免疫学分野／病原微生物学教室	2017年4月1日	
岩永敏彦	解剖学分野／組織細胞学教室	2017年4月1日	
佐々木秀直	神経病態学分野／神経内科学教室	2017年4月1日	
松居喜郎	外科学分野／循環器・呼吸器外科学教室	2019年4月1日	
寶金清博	神経病態学分野／脳神経外科学教室	2019年4月1日	*
大滝純司	医学教育・国際交流推進センター	2019年4月1日	
笠原正典	病理学分野／分子病理学教室	2021年4月1日	
山下啓子	乳腺外科学教室	2021年4月1日	*
佐邊壽孝	生化学分野／分子生物学教室	2022年4月1日	
秋田弘俊	内科学分野／腫瘍内科学教室	2022年4月1日	*
生駒一憲	機能再生医学講座／リハビリテーション医学教室	2022年4月1日	*
渡邉雅彦	解剖学分野／解剖発生学教室	2023年4月1日	
橋野　聡	保健センター	2023年4月1日	
篠原信雄	外科学分野／腎泌尿器外科学教室	2024年4月1日	
久住一郎	神経病態学分野／精神医学教室	2024年4月1日	
山本有平	機能再生医学分野／形成外科学教室	2025年4月1日	

故人は掲載していません

＊は北海道大学病院　名誉教授

栄　誉

2025 年 7 月 1 日現在

日本学士院賞

受賞者	受賞年	受賞時の職名	受賞理由
今　　裕	1934 年 ※帝国学士院賞	教　授	細胞の銀反応の研究
白　土　博　樹	2022 年	教　授	がんの動体追跡放射線治療・粒子線治療に関する医理工学研究

紫綬褒章

受章者	受章年	受章時の職名	受章理由
平　井　秀　松	1981 年	教　授	癌の免疫化学的研究
小　林　　博	1990 年	教　授	病理学研究

全国発明表彰　恩賜発明賞

受賞者	受賞年	受賞時の職名	受賞理由
白　土　博　樹	2017 年度	教　授	動体追跡粒子線がん治療装置の発明

文部科学大臣賞

受賞者	受賞年	受賞時の職名	受賞理由
白　土　博　樹	2015 年度（第 13 回）	教　授	動く腫瘍をピンポイントで狙う「“4 次元動体追跡型” 陽子線治療装置」の開発と普及

北海道科学技術賞

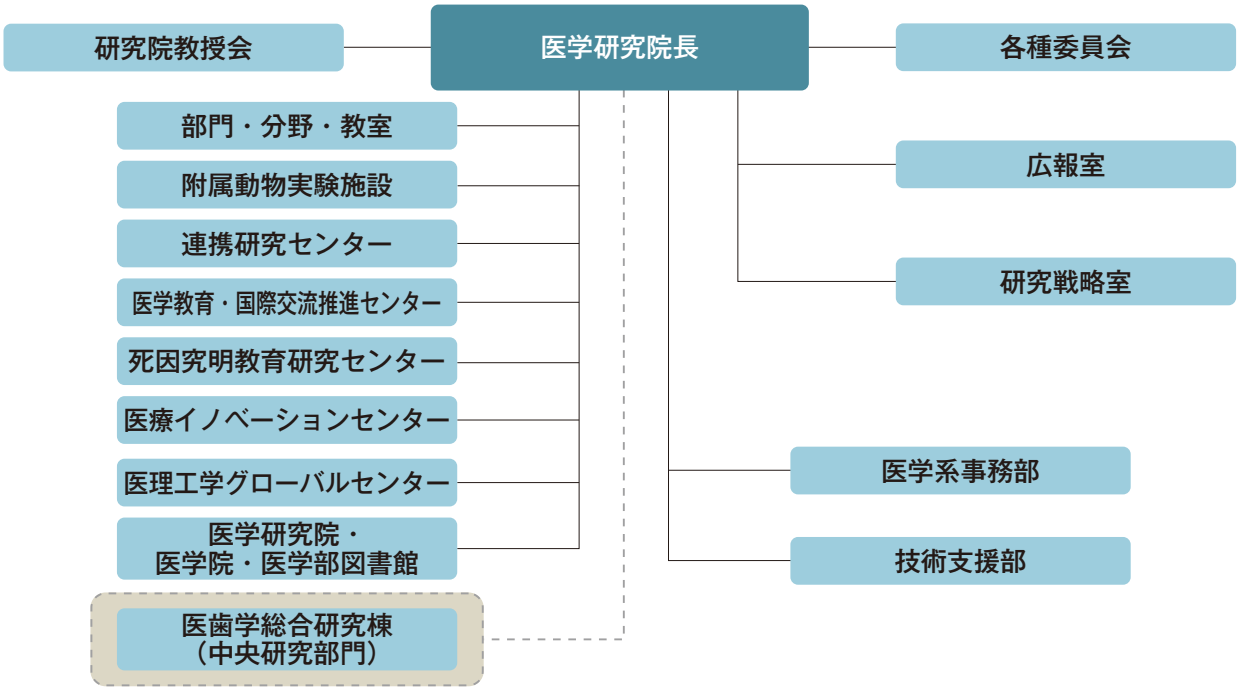
受賞者	受賞年	受賞時の職名	受賞理由
伊　藤　真　次	1967 年度（第 8 回）	教　授	生体代謝調節機序等新分野の開拓
若　林　　勝	1970 年度（第 11 回）	教　授	ガン放射線治療法の新技術開発
高　桑　榮　松	1976 年度（第 17 回）	教　授	集中維持機能測定装置の開発を通じた道民福祉への貢献
平　井　秀　松	1980 年度（第 21 回）	教　授	α-フェトプロティンの実験的研究を通じた医療技術の発展への貢献
相　沢　　幹	1987 年度（第 28 回）	教　授	国際的 HLA 学のパイオニアとして活躍し、医学分野における科学技術の発展に貢献
安　田　壽　一	1990 年度（第 31 回）	教　授	虚血性心疾患の早期発見等に尽力するなど医学の発展に貢献
松　本　脩　三	1992 年度（第 33 回）	教　授	免疫不全症候群についての診断基準を作成するなど医学の発展に貢献
宮　崎　　保	1992 年度（第 33 回）	医学部附属病院長	腫瘍細胞を抑制する方法での再発防止や免疫不全症の発症回避に関する基礎の確立など医学の発展に貢献
大　里　外誉郎	1994 年度（第 35 回）	教　授	ウイルスによるヒト発ガン機構の研究を通じた医学および道民生活の向上に貢献
川　上　義　和	1997 年度（第 38 回）	教　授	在宅酸素療法の確立など医学の発展に貢献
吉　木　　敬	2004 年度（第 45 回）	名誉教授	ヒト T 細胞白血病ウイルス I 型（HTLV-Ⅰ）感染症のモデル動物の開発と解析
三　浪　明　男	2008 年度（第 49 回）	教　授	上肢外科領域の基礎および臨床研究発展への貢献
浅　香　正　博	2010 年度（第 51 回）	教　授	わが国からの胃癌撲滅をめざした具体的方策の提唱
瀬　谷　　司	2013 年度（第 54 回）	教　授	新しいインターフェロン誘導経路の発見とそれを用いた抗がん免疫アジュバントの開発
白　土　博　樹	2014 年度（第 55 回）	教　授	定位技術・動体追跡技術などを用いた高精度光子線・粒子線治療の開発と臨床研究
西　村　正　治	2018 年度（第 59 回）	名誉教授	慢性閉塞性肺疾患（COPD）研究に関する世界的貢献と本邦における啓発活動
松　居　喜　郎	2019 年度（第 60 回）	名誉教授	新しい重症心不全外科治療法の開発と北海道における心臓移植再開
清　水　　宏	2020 年度（第 61 回）	名誉教授	難治性先天性皮膚疾患に対する病態解明および新規治療法の開発
秋　田　弘　俊	2021 年度（第 62 回）	教　授	コンパニオン診断によるがん個別化治療の開発とがんゲノム医療の構築
豊　嶋　崇　徳	2022 年度（第 63 回）	教　授	新型コロナウィルス感染症の唾液診断法の開発
岩　崎　倫　政	2023 年度（第 64 回）	教　授	健康寿命延伸を目指した運動器疾患に対する新規治療法の開発と臨床応用
渥　美　達　也	2024 年度（第 65 回）	北海道大学病院長	難治性自己免疫疾患の診断法・新規治療法開発ならびに治療標準化に関する功績

受賞情報は医学部 web サイトに掲載しています。
https://www.med.hokudai.ac.jp/awards/

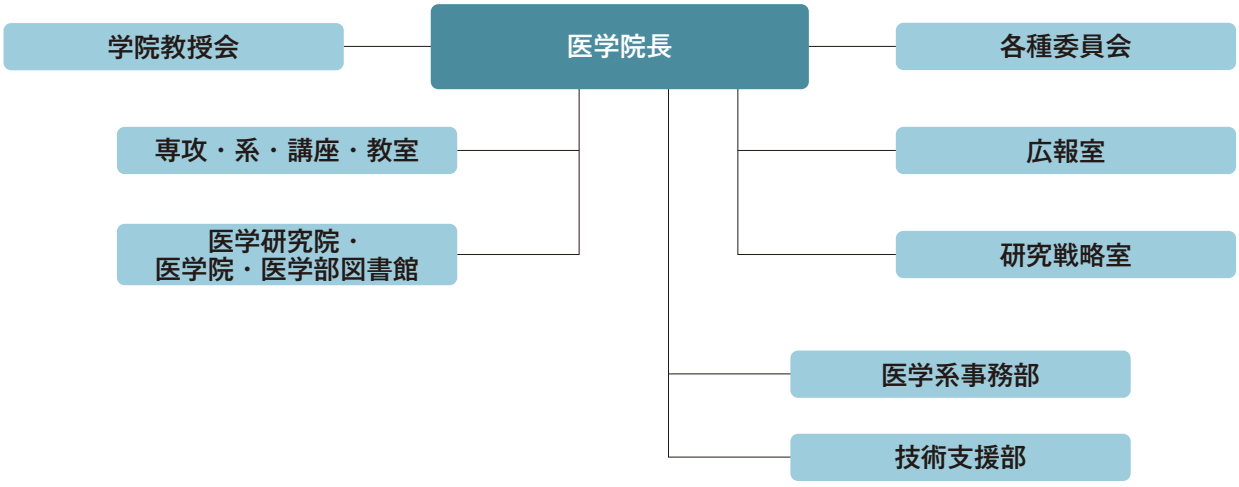
組織図

2025年4月1日現在

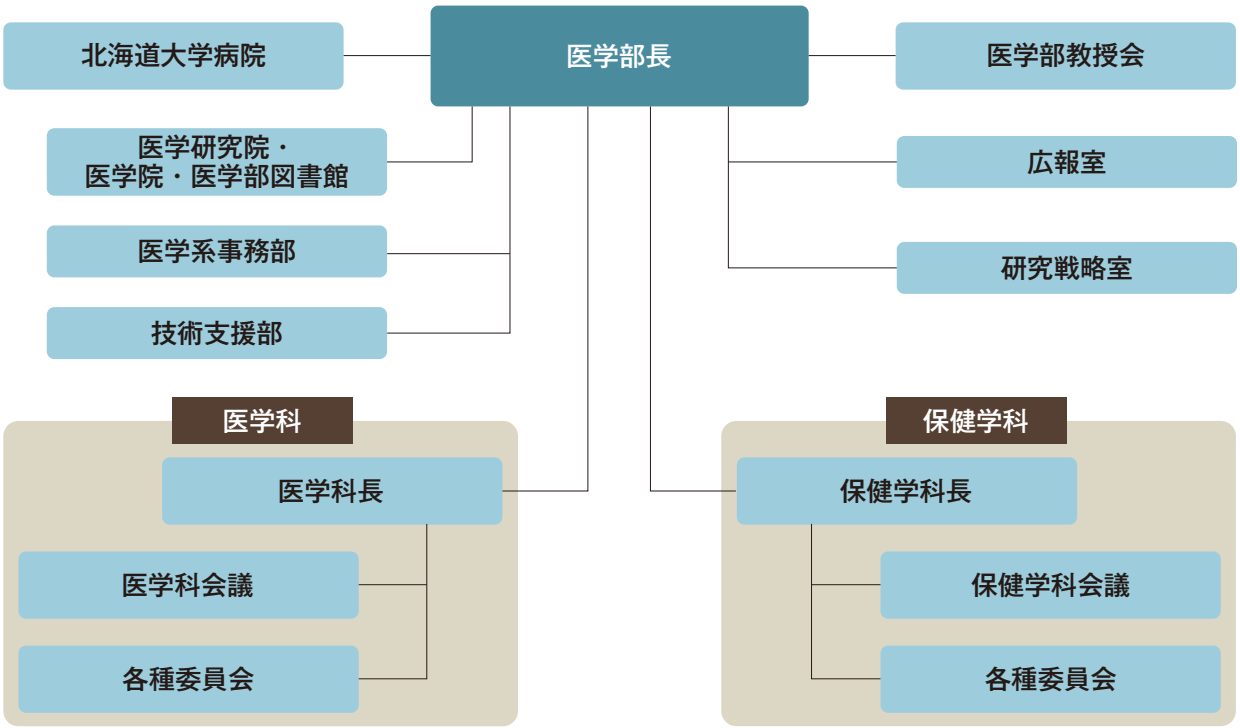
大学院医学研究院



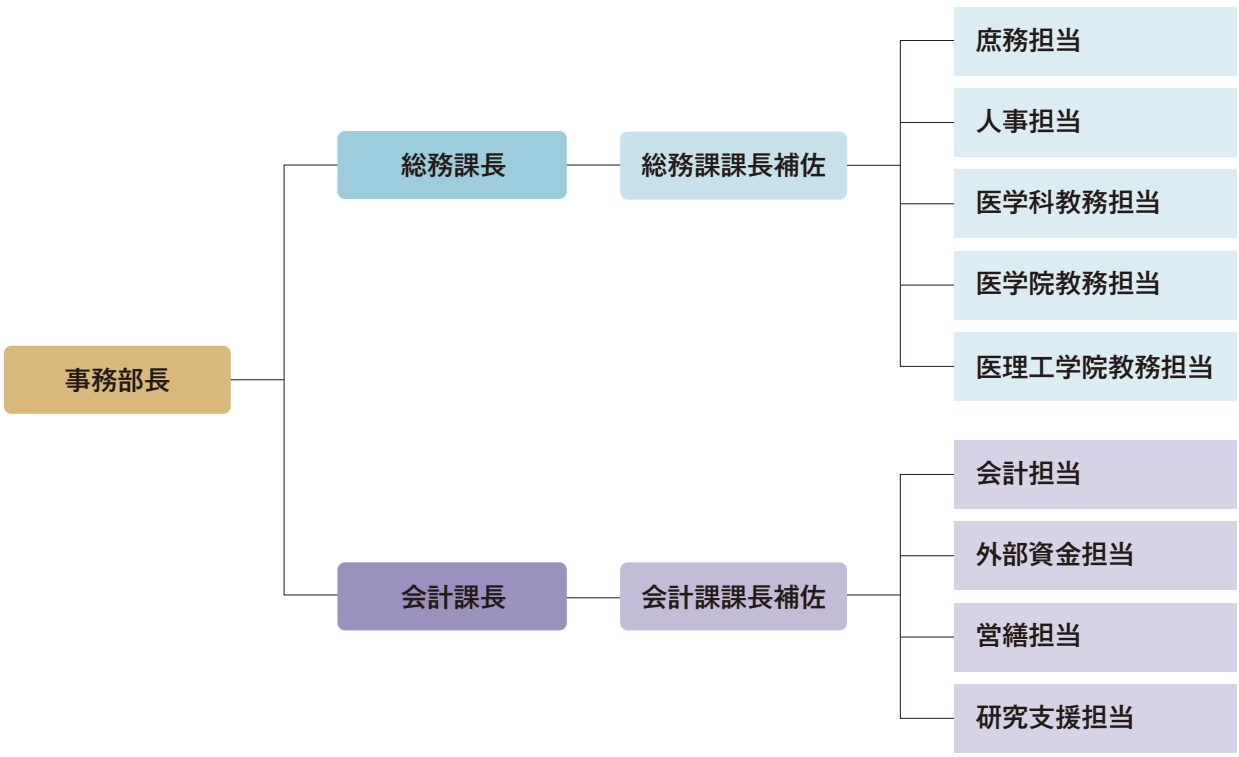
大学院医学院



医学部



医学系事務部（図書担当、保健科学研究院事務課を除く）



役職員

2025年7月1日現在

医学部

医学部長・医学科長	田　中　伸　哉

大学院医学院

学院長	田　中　伸　哉
副学院長	武　冨　紹　信
	矢　部　一　郎
学院長補佐	上　田　佳　代
	工　藤　與　亮
	若　狭　　哲

大学院医学研究院

研究院長	田　中　伸　哉
副研究院長	武　冨　紹　信
	矢　部　一　郎
研究院長補佐	上　田　佳　代
	工　藤　與　亮
	若　狭　　哲
附属動物実験施設長	藤　山　文　乃
連携研究センター長	田　中　伸　哉
医学教育・国際交流推進センター長	田　中　伸　哉
死因究明教育研究センター長	田　中　伸　哉
医療イノベーションセンター長	田　中　伸　哉
医理工学グローバルセンター長	田　中　伸　哉
図書館長	青　山　英　史
広報室長	矢　部　一　郎
研究戦略室長	武　冨　紹　信
技術支援部長	田　中　伸　哉
医歯学総合研究棟　中央研究部門主任	藤　山　文　乃

北海道大学病院長	南須原　康　行

医学系事務部

事務部長	眞　野　茂　樹
総務課長	木　村　美　佳
会計課長	吉　田　　茂
総務課課長補佐	大　沢　　将
	佐　藤　　通
会計課課長補佐	新　見　雅　之
係長（庶務担当）	塚　田　倫　子
係長（人事担当）	山　本　大　輔
係長（医学科教務担当）	佐　脇　康　仁
係長（医学院教務担当）	原　田　奈緒子
係長（医理工学院教務担当）	西　尾　慎一郎
係長（会計担当）	下　澤　保　裕
係長（外部資金担当）	室　井　俊　介
係長（営繕担当）	飯　田　純　二
係長（研究支援担当）	小　島　将　人
係長（図書担当）	栗　田　とも子

教職員数

2025 年 5 月 1 日現在

教　員

■大学院医学研究院構成員

区　分	教員数
教授	36
准教授	24
講師	17
助教	51
専任教員合計	**128**

特任教授	3
特任准教授	2
特任講師	4
特任助教	25
特任助手	1
特任教員合計	**35**

招へい教員	50
大学院連携講座教員	58

■教育担当構成員

区　分	教員数
大学院医学院	288 （大学院医学研究院 122 北海道大学病院 149 遺伝子病制御研究所 14 保健センター 3）
医学部医学科	345 （大学院医学研究院 128 北海道大学病院 217）

事務・技術・研究支援員

区　分	医学研究院	医学系事務部
事務職員	—	36
事務補佐員	38	13
事務補助員	55	3
技術職員	13	2
技術補佐員	17	—
技術補助員	29	—
特定専門職員	5	—
研究支援推進員	1	—
博士研究員	4	—
学術研究員	13	—
特別研究員	—	—
合　計	**175**	**54**

外国籍教職員数

専任教員・特任教員	左記以外の職員	合　計
8	5	**13**

組織構成

2025 年 6 月 1 日現在

大学院医学研究院	7 部門・16 分野・6 寄附分野・2 産業創出分野・(42 教室)
大学院医学院	2 専攻 19 講座｛60 教室（1 連携分野含む)｝・1 臨床系連携講座（28 臨床系連携講座施設）
医学部医学科	1 学科・26 学科目

教室一覧

2025年6月1日現在

大学院医学研究院

＊寄附分野
■産業創出分野

部門	分野	教室
生理系部門	生化学分野	分子生物学教室
		医化学教室
	解剖学分野	解剖発生学教室
		組織細胞学教室
	生理学分野	細胞生理学教室
		神経生理学教室
	薬理学分野	神経薬理学教室
		細胞薬理学教室
病理系部門	病理学分野	統合病理学教室
		腫瘍病理学教室
	微生物学免疫学分野	免疫学教室
		病原微生物学教室
社会医学系部門	社会医学分野	衛生学教室
		公衆衛生学教室
		法医学教室
		医療政策評価学教室
		医学統計学教室
内科系部門	内科学分野	呼吸器内科学教室
		免疫・代謝内科学教室
		消化器内科学教室
		循環器内科学教室
		腫瘍内科学教室
		血液内科学教室
	放射線科学分野	放射線治療学教室
		画像診断学教室
	呼吸・循環イノベーティブリサーチ分野 ＊	
	心不全低侵襲先進治療学分野 ＊	
	心不全遠隔医療開発学分野 ＊	
	先端画像診断開発学分野 ＊	
外科系部門	外科学分野	消化器外科学教室Ⅰ
		消化器外科学教室Ⅱ
		腎泌尿器外科学教室
		心臓血管外科学教室
	侵襲制御医学分野	麻酔・周術期医学教室
		救急医学教室
	移植外科学分野 ＊	

部門	分野	教室
専門医学系部門	機能再生医学分野	整形外科学教室
		形成外科学教室
	生殖・発達医学分野	小児科学教室
		産婦人科学教室
	感覚器病学分野	皮膚科学教室
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
		眼科学教室
	神経病態学分野	精神医学教室
		脳神経外科学教室
		神経内科学教室
	未来型遠隔医療開発・実践分野 ＊	
	膝関節機能再建分野 ■	
	バイオマテリアル機能再生分野 ■	
連携医学系部門	医生物学分野	神経生物学教室

大学院医学院

専　攻	系	講　座	教　室
医学専攻	生理系	生化学講座	分子生物学教室
			医化学教室
		解剖学講座	解剖発生学教室
			組織細胞学教室
		生理学講座	細胞生理学教室
			神経生理学教室
		薬理学講座	神経薬理学教室
			細胞薬理学教室
	病理系	病理学講座	統合病理学教室
			腫瘍病理学教室
			分子診断病理学教室
		微生物学 免疫学講座	免疫学教室
			病原微生物学教室
	社会医学系	社会医学講座	衛生学教室
			公衆衛生学教室
			法医学教室
			医療政策評価学教室
			医学統計学教室
			医学教育・総合診療医学教室
			レギュラトリーサイエンス教室
			医療安全管理学教室
			ヘルスデータサイエンス教室
			臨床遺伝学・医療倫理学教室
	内科系	内科学講座	呼吸器内科学教室
			免疫・代謝内科学教室
			消化器内科学教室
			循環器内科学教室
			腫瘍内科学教室
			血液内科学教室
			健康管理医学教室
			がんゲノム医療学教室
		放射線科学講座	放射線治療学教室
			画像診断学教室
			放射線医学総合研究教室 ★
	外科系	外科学講座	消化器外科学教室Ⅰ
			消化器外科学教室Ⅱ
			腎泌尿器外科学教室
			心臓血管外科学教室
			乳腺外科学教室
			呼吸器外科学教室
		侵襲制御医学講座	麻酔・周術期医学教室
			救急医学教室
	専門医学系	機能再生医学講座	整形外科学教室
			形成外科学教室
			リハビリテーション医学教室
			スポーツ医科学教室
		生殖・発達医学講座	小児科学教室
			産婦人科学教室

★大学の連携協定により置かれている連携分野

専　攻	系	講　座	教　室
医学専攻	専門医学系	感覚器病学講座	皮膚科学教室
			耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
			眼科学教室
		神経病態学講座	精神医学教室
			脳神経外科学教室
			神経内科学教室
	連携医学系	医生物学講座	神経生物学教室
		免疫科学講座	免疫生物学教室
			分子神経免疫学教室
			生命分子機構教室
		癌病態学講座	幹細胞生物学教室
			がん制御学教室
		臨床系連携講座	連携講座施設(各医療機関)※
医科学専攻		医科学講座	

※ 大学院臨床系連携講座設置医療機関	札幌市内	NTT 東日本　札幌病院
		医療法人　札幌麻生脳神経外科病院
		JA 北海道厚生連　札幌厚生病院
		医療法人セレス　さっぽろ神経内科病院
		社会医療法人柏葉会　札幌柏葉会病院
		社会医療法人北楡会　札幌北楡病院
		市立札幌病院
		医療法人渓仁会　手稲渓仁会病院
		国家公務員共済組合連合会　斗南病院
		社会医療法人朋仁会　整形外科北新病院
		独立行政法人国立病院機構　北海道医療センター
		独立行政法人国立病院機構　北海道がんセンター
		医療法人　北海道整形外科記念病院
		医療法人社団研仁会　北海道脳神経外科記念病院
		医療法人北祐会　北海道脳神経内科病院
		独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)北海道病院
	北海道内	日本赤十字社　旭川赤十字病院
		医療法人社団我汝会　えにわ病院
		医療法人渓和会　江別病院
		小樽市立病院
		JA 北海道厚生連　帯広厚生病院
		独立行政法人労働者健康安全機構　釧路ろうさい病院
		市立釧路総合病院
		市立函館病院
		医療法人悠康会　函館整形外科クリニック
		社会福祉法人函館厚生院　函館中央病院
		独立行政法人国立病院機構　函館医療センター
		独立行政法人労働者健康安全機構　北海道せき損センター

医学研究院および医学院教室等　主要研究内容

2025 年 8 月 1 日現在

※ 1：医学研究院のみの教室　※ 2：医学院のみの教室　（兼）：兼担　◎：特任教授　＊：客員教授

	教室名	教　授	主要研究内容
生理系	分子生物学	畠山　鎮次（兼）	1. 細胞統合性基盤としての代謝と核内ジオメトリー 2. 細胞内オルガネラ動的ナノ構造 3. 癌治療抵抗性の分子基盤
	医化学	畠山　鎮次	1. タンパク質分解システムにおけるユビキチン化の役割 2. がんや免疫における細胞内シグナル伝達 3. 質量分析によるタンパク質・脂質の機能解析
	解剖発生学	藤山　文乃（兼）	1. シグナル伝達の分子発現と機能発現 2. グリアによる脳の機能調節 3. シナプス回路発達の分子機構
	組織細胞学	藤山　文乃	1. 中枢神経回路の構造と機能 2. パーキンソン病の病態解明
	細胞生理学	大場　雄介	1. バイオイメージングによる細胞生理機能の可視化 2. 細胞内・細胞間シグナル伝達の制御メカニズム 3. バイオイメージング技術の開発と応用
	神経生理学	田中　真樹	1. 随意運動の神経機構 2. 前頭葉皮質の機能解析 3. 大脳基底核の機能解析 4. 小脳の機能解析
	神経薬理学	吉川　雄朗	1. ヒスタミン神経系に関する神経薬理学的研究 2. 覚醒における神経ペプチドの機能解明 3. ナルコレプシーを標的とした創薬研究 4. ヒアルロン酸分解酵素の分子生物学的研究 5. カルシウムイメージングと機械学習を用いた睡眠と記憶の神経活動解明
	細胞薬理学	吉川　雄朗（兼）	1. たばこ煙成分が細胞機能に及ぼす影響の解析 2. 好中球の活性化およびその制御機構に関する研究
病理系	統合病理学	谷口　浩二	1. 炎症とがんに関する研究 2. 炎症と組織再生に関する研究 3. 自己免疫、炎症性疾患の病態形成に関する研究 4. タイト結合に関する研究 5. 難治性がん病態解明のための新しい cancer-on-chip の開発 6. 人体病理学・外科病理学
	腫瘍病理学	田中　伸哉	1. 外科病理・人体病理学に関する総合的な研究 2. がん発生メカニズム、がん幹細胞、がん治療法開発に関する研究 3. 疾患の網羅的遺伝子プロファイルの解析 4. バイオイメージング・迅速免疫染色法を用いた疾患の病理学的研究 5. バイオマテリアルを用いた細胞のリプログラミングの研究 6. 脳腫瘍、軟部腫瘍に関する NGS を用いた病理診断法の研究 7. 学生の興味に応じた自由な研究
	分子診断病理学 ※2	田中　伸哉（兼）	1. 外科病理診断学（細胞病理診断学を含む）の研究 2. 新しい分子マーカーを用いた病理学的診断法の開発・応用に関する研究 3. 病理診断の精度向上と標準化の推進に関する研究 4. 臨床病理学的解析を基盤とする種々の臓器がんの生物学的・臨床的特性の解明
	免疫学	小林　弘一	1. TLR および NLR 蛋白ファミリーによる宿主防御メカニズムに関する研究 2. 自然免疫系と感染症および炎症性疾患の発症メカニズムに関する研究 3. Nod2 による腸管粘膜恒常機構とクローン病発症メカニズムに関する研究 4. CITA/NLRC5：MHC クラス　I 遺伝子のマスター制御因子に関する研究 5. がん細胞の免疫逃避メカニズムに関する研究 6. 新規がんバイオマーカーと免疫療法の開発に関する研究 7. 癌およびコロナウイルスに対する新規ワクチン療法の開発

	教室名	教　授	主要研究内容
病理系	病原微生物学	小林　弘一(兼)	1. 肝炎ウイルス（HBV、HCV）の増殖性に関わるウイルス因子および宿主因子に関する研究 2. ウイルス感染による病原性発現機構の分子生物学的および実験動物モデルを用いた研究 3. ウイルス感染症（コロナウイルス、フラビウイルス）の診断法および抗ウイルス薬開発に関する研究 4. 人獣共通感染症（ハンタウイルス、フラビウイルス）の疫学的、分子生物学的研究
社会医学系	衛生学	上田　佳代	1. 環境疫学に関する研究 2. 集団レベルの健康介入に関する準実験デザイン（分割時系列解析、操作変数法） 3. 医療・介護施設における気候変動・自然災害・感染症流行など非常時の対応に関する研究 4. 認知症の行動・心理症状に関する疫学研究 5. 気候変動・グローバル環境による健康影響評価
	公衆衛生学	玉腰　暁子	1. 中高齢者の食、運動、社会環境等と健康に関する調査研究 2. 児の健康、発達に関連する要因の妊娠期からの調査 3. 不妊予防と治療支援に関する研究 4. 新型コロナウイルス感染症罹患後症状に関する研究
	法医学	的場　光太郎	1. 法医診断学に関する研究（死因、死後経過時間、損傷、窒息、個人識別、死後CT 画像診断） 2. 外因性異常所見の発生機序に関する研究
	医療政策評価学	古元　重和	1. 高齢化人口減少社会における、医療・介護の提供体制に関する研究 2. がんをはじめとする疾病対策に関する研究 3. レセプト等の行政データベースを用いた計量経済学的手法による医療介護政策の評価 4. 健康で自立した生活を実現するためのイノベーション利活用に関する研究 5. 医療技術評価（Health Technology Assessment）に関する研究
	医学統計学	田中　伸哉(兼)	1. 多変量生存時間アウトカム全般に関する研究 2. 診断法・予測モデル構築のための方法論研究 3. 臨床試験デザインの開発研究 4. 柔軟性を持たせた経時測定データとの同時モデル 5. 大規模データベース・公的データベース等を用いた臨床疫学研究
	医学教育・総合診療医学 ※2	髙橋　　誠	1. 指導方法や教材の開発に関する研究 2. 評価方法の開発に関する研究 3. 学習行動に影響する要因に関する研究 4. 医師のキャリア選択に影響する要因に関する研究
	レギュラトリーサイエンス ※2	荒戸　照世	1. 先端バイオ医薬品の開発に必要とされる試験内容に関する研究 2. 稀少疾病用医薬品の開発戦略に関する研究 3. 医薬品・医療機器の製造販売後調査に関する研究
	医療安全管理学 ※2	南須原　康行(兼)	1. 安全な医療を提供するための組織的対応についての研究 2. 医療安全管理者育成方法の研究 3. 医療事故調査方法の標準化に関する研究
	ヘルスデータサイエンス ※2	伊藤　陽一	1. リアルワールドデータの取得方法に関する情報学的研究 2. リアルワールドデータのデータ管理に関する研究 3. リアルワールドデータの研究デザインおよび解析方法に関する研究
	臨床遺伝学・医療倫理学 ※2	山田　崇弘	1. ゲノム医療における二次的所見の開示に関する研究 2. 新生児スクリーニングと遺伝カウンセリングに関する研究 3. 遠隔遺伝カウンセリングに関する研究 4. 発症前遺伝学的検査に関する研究 5. 出生前遺伝学的検査と遺伝カウンセリング提供体制に関する研究
内科系	呼吸器内科学	今野　　哲	1. 喘息/COPD に関する前向きコホート研究 2. 呼吸器腫瘍の病因・診断・治療に関する研究 3. 慢性気道疾患、びまん性肺疾患の分子病態生理に関する研究 4. 肺循環疾患および心サルコイドーシスの病態・診断・治療に関する研究 5. 呼吸器感染症に関する基礎/臨床研究

	教室名	教　授	主要研究内容
内科系	免疫・代謝内科学	渥美　達也	1. 膠原病の基礎的および臨床的研究 2. 糖尿病・肥満症の病態生理・治療に関する研究 3. 内分泌疾患の病態生理・治療に関する研究 4. 腎疾患の基礎的および臨床的研究
	消化器内科学	坂本　直哉	1. 肝疾患の病態生理、診断、治療に関する研究 2. 膵臓、胆道疾患の病態生理、診断、治療に関する研究 3. 消化器悪性腫瘍の病態生理、診断、治療に関する研究 4. 炎症性腸疾患の病態生理、治療に関する研究 5. 消化器疾患の病態生理、診断、治療に関する研究
	循環器内科学	安斉　俊久	1. 虚血性心疾患の病態生理・診断・治療に関する研究 2. 心不全の病態生理・治療に関する分子生物学的ならびに臨床的研究 3. 心筋症の成因・診断・治療に関する研究 4. 生活習慣病の発症機構・診断・治療に関する研究 5. 不整脈の成因・診断・治療に関する研究 6. 心疾患の非侵襲的診断法の開発
	腫瘍内科学	今野　　哲(兼)	1. 悪性腫瘍全般に亘る診断、治療に関する研究 2. 肺癌・縦隔腫瘍の分子病態、診断、治療に関する研究 3. 消化器癌の分子病態、診断、治療に関する研究 4. 癌薬物療法に関する総合的研究 5. 癌の分子標的治療に関する研究 6. 癌のゲノム解析およびコンパニオン診断、個別化治療に関する研究
	血液内科学	豊嶋　崇徳	1. 造血器悪性腫瘍の分子病態・診断・治療に関する研究 2. 造血幹細胞移植および免疫細胞療法の安全性・有効性向上を目指す研究 3. 造血のしくみを解明するための研究 4. 悪性腫瘍およびウイルス感染症に対する細胞療法の開発 5. AIDS など免疫不全症の発症機序、診断、治療に関する研究 6. 輸血医学に関する研究 7. 血小板機能および血液凝固線溶に関する研究
	健康管理医学 ※2	朝倉　　聡	1. ストレスと健康障害に関する研究 2. 健康診断における EBM に関する研究 3. 産業精神保健に関する研究 4. 青年期精神保健に関する研究 5. 精神疾患の治療介入に関する研究
	がんゲノム医療学 ※2	木下　一郎	1. がんのゲノム解析に関する研究 2. がんのゲノム異常に関する研究 3. がんのエピゲノム変化に関する研究 4. がんの新規バイオマーカーの開発 5. がんの分子標的治療に関する研究
	放射線治療学	青山　英史	1. 外照射治療の研究 2. 高精度 X 線治療に関する研究 3. 粒子線・陽子線治療の研究 4. 医学物理学に関する研究 5. 放射線治療に関わる生物学的研究
	画像診断学	工藤　與亮	1. CT、MRI、超音波、核医学画像等の画像診断の研究 2. 血管造影・画像下治療（IVR）の研究 3. アイソトープ治療の研究 4. 動態機能画像解析・AI 画像解析の研究 5. 造影剤・放射性医薬品の合成に関する研究 6. 安定同位体・放射性同位体を用いた分子イメージングに関する研究
	呼吸・循環イノベーティブリサーチ（寄附分野）※1	辻野　一三 ◎	1. 肺高血圧症の発症機序、診断および治療に関する研究 2. 肺高血圧症における右心機能評価系の構築および臨床応用 3. 心サルコイドーシスの疫学、診断および治療
	心不全低侵襲先進治療学（寄附分野）※1	安斉　俊久(兼)	1. 冠動脈インターベンション適応症例の適切性に関する研究 2. 構造的心疾患に対する新規低侵襲治療法の開発 3. 経カテーテル的大動脈弁置換術の費用対効果に関する研究 4. 経カテーテル的大動脈弁置換術後血栓弁発症の予測因子同定に関する研究
	心不全遠隔医療開発学（寄附分野）※1	安斉　俊久(兼)	1. 不整脈デバイスを用いた心不全遠隔モニタリング基盤の開発 2. 心不全遠隔モニタリングによる至適薬物療法に関する研究 3. 心臓性突然死予防に関する研究 4. 大規模心不全レジストリ基盤の開発

	教室名	教　授	主要研究内容
内科系	先端画像診断開発学 （寄附分野）※1	工藤　與亮（兼）	1. 安定同位体・多核 MRI に関する研究 2. 人工知能（AI）を用いた画像処理・コンピュータ支援診断技術の開発 3. 画像診断の効率化の研究
外科系	消化器外科学Ⅰ	武冨　紹信	1. 消化器癌の悪性化の病態解明と新規治療法の開発研究 2. 消化器癌に対する新しい内視鏡およびロボット支援手術技術の開発研究 3. 移植免疫の制御に関わる研究 4. 臨床応用可能な臓器保存法の改良研究 5. 細胞移植成績向上を目指した病態および治療法の開発研究 6. 消化器外科領域における AI の応用研究 7. 外科教育の効率化を目指した研究 8. 小児悪性固形腫瘍と小児肝・胆道系疾患の基礎的研究と治療 9. 小児消化管機能の基礎的・臨床的研究
	消化器外科学Ⅱ	平野　　聡	1. 消化器癌の病態解明と外科的治療法の開発 2. 鏡視下手術法・器具の開発 3. 消化器癌高度侵襲手術における周術期管理法の研究 4. 膵・胆道癌に対する集学的治療戦略に関する研究 5. 分子生物学的手法を用いた癌悪性度を評価するバイオマーカーの探索 6. 免疫治療に関するトランスレーショナルリサーチの展開 7. 癌局所微小環境における免疫応答の解析 8. 難治性癌に対する遺伝子治療に関する研究 9. 外科教育学に関する研究 10. 減量・代謝改善手術に関する研究
	腎泌尿器外科学	安部　崇重	1. 下部尿路閉塞に伴う排尿筋過活動の発生機構の研究 2. 膀胱刺激における神経伝導路の研究 3. 慢性移植腎拒絶反応の発生に関する研究 4. 移植免疫の機構およびその制御による治療法の開発に関する研究 5. 腎癌の癌化・進展機構の研究 6. 膀胱癌の転移・進展に関わる分子生物学的機構に関する研究 7. 前立腺癌治療における QOL に関する研究 8. 最小侵襲手術開発に関する研究 9. 腹腔鏡手術における熟練者の鉗子動態の特徴解析
	心臓血管外科学	若狭　　哲	1. 重症心不全に対する外科治療に関する研究 2. 機能性僧帽弁閉鎖不全症に対する外科治療の研究 3. 心筋保護に関する研究 4. オートファジーから見た心臓冷却保存の研究 5. 心房細動と代謝異常に関する研究 6. 大血管疾患に対するステントグラフト治療に関する研究
	乳腺外科学 ※2	高橋　将人	1. 乳癌の生物学的特性に関する研究 2. 乳癌の内分泌療法に関する研究 3. 乳癌の発症メカニズムと予防に関する研究 4. 新規の乳癌検診法開発に関する研究 5. 乳癌手術法開発に関する研究 6. 乳癌周術期薬物療法開発に関する研究 7. 転移再発乳癌に対する薬物療法開発に関する研究 8. 遺伝性乳癌に関する研究
	呼吸器外科 ※2	加藤　達哉	1. 低侵襲胸部外科手術の開発 2. 肺癌の集学的治療における手術療法の研究 3. 肺移植に関する研究 4. ナノ粒子を用いた胸部悪性腫瘍に対する光線力学的療法の研究 5. 網羅的がん遺伝子検査を用いた再発診断および分子標的治療法の研究 6. 免疫療法の研究 7. 悪性胸膜中皮腫、胸腔内播種性病変の研究
	麻酔・周術期医学	森本　裕二	1. 脳保護と脳蘇生に関する研究 2. 生体侵襲と全身管理に関する研究 3. 麻酔薬の神経毒性に関する研究 4. 術後認知機能障害に関する研究 5. 痛みの機序とその治療法に関する研究 6. 呼吸周期の機序と薬物の影響 7. 高気圧酸素治療の基礎と臨床 8. 手術部患者情報管理システムの構築と医療経済学

	教室名	教　授	主要研究内容
外科系	救急医学	和田　剛志	1. 生体侵襲に対する病的生体反応の病態解明とその制御方法の確立 2. 集中治療医学 3. 心肺脳蘇生法 4. 中毒学 5. 災害医学 6. 救急搬送・情報システム 7. 外傷学
	移植外科学 （寄附分野）※1	武冨　紹信（兼）	1. 肝移植における免疫状態の評価法と制御性 T 細胞による免疫寛容誘導法の開発 2. 臨床膵島移植の成績向上のための基礎的研究 3. 膵島移植後の免疫寛容誘導のための研究 4. 異種移植実現に向けての基礎的研究 5. ヒト肝臓由来多能性幹細胞リソースの構築のための基礎的研究
専門医学系	整形外科学	岩崎　倫政	1. 関節炎の病態解明と治療方法開発に関する研究 2. 糖鎖を介した骨、軟骨代謝制御機構に関する研究 3. 骨粗鬆症の病態解明と治療 4. 椎間板変性の病態解明と治療方法開発に関する研究 5. 運動器疾患の病態と手術的療法に関する生体力学研究 6. 脊髄、末梢神経疾患の病態解明と治療方法開発に関する研究 7. AI を使用した運動器疾患の新規診断、解析、予後予測方法開発に関する研究 8. 運動器疾患の遺伝学的および疫学研究 9. 運動器の再生医療法の開発
	形成外科学	氏家　英之（兼）	1. 創傷治癒に関する分子生物学的研究と治療技法への応用 2. ケロイドの病態に関する基礎的研究と治療技法への応用 3. 再建外科における組織移植手技の開発と臨床応用 4. 皮膚軟部組織悪性腫瘍の分子生物学的研究と診断・治療技法への応用 5. 血管・リンパ管等の脈管再生医学 6. Tissue Engineering によるバイオ臓器再生医療 7. 顎顔面外科における病因解明と治療技法の開発
	リハビリテーション医学 ※2	向野　雅彦	1. 運動障害の動作解析に関する研究 2. 活動モニタリングに関する研究 3. 生活機能統計に関する研究 4. 遠隔リハビリテーションに関する研究 5. 高次脳機能障害の評価手法に関する研究
	スポーツ医科学 ※2	近藤　英司	1. アスリートのパフォーマンス向上のための動作解析 2. 変形性関節症に対する機能再建法の開発 3. 関節の組織再生 4. 生体軟組織の再構築機序の解明と制御 5. 合成高分子ゲルの医療応用 6. 運動器疾患に対する先端治療技術および材料の開発
	小児科学	真部　　淳	1. 原発性免疫不全症の早期診断法の確立 2. 小児から AYA 世代におけるヘルスリテラシーの研究 3. 小児の血液・腫瘍疾患の診断と治療に関する研究 4. 小児の造血細胞移植と細胞療法に関する研究 5. 新たな小児内分泌疾患の遺伝学的解析 6. 神経疾患モデル動物を用いた病態解析と治療法開発 7. 小児腎疾患における活性化壁側上皮細胞の役割についての病理組織学的研究 8. ミトコンドリアドラッグデリバリーシステムを用いた心筋再生治療における開発 9. 新生児慢性肺疾患の予後改善に関する研究 10. 先天性代謝疾患の臨床ならびに基礎的研究
	産婦人科学	渡利　英道	1. 胎児・羊水の生理に関する基礎的研究 2. 出生前診断および胎内治療に関する臨床的研究 3. 妊娠合併症の母体・胎児・新生児の管理に関する研究 4. 難治性不妊症に関する臨床的研究 5. 卵胞内生理学 6. 子宮癌発生機構ならびに転移機構に関する分子生物学的研究 7. 女性生殖器悪性腫瘍の抗癌剤耐性機構の研究 8. 胎盤の増殖・分化の分子機構 9. 卵巣癌の新規分子標的治療開発に関する研究 10. 子宮頸癌に対する新たな効率的な検診方法の確立に関する研究

	教室名	教　授	主要研究内容
専門医学系	皮膚科学	氏家　英之	1. 表皮の分子細胞生物学の研究 2. 遺伝性皮膚疾患の病態生理、診断、治療の研究 3. 自己免疫性水疱症の病態生理、診断、治療の研究 4. 皮膚悪性腫瘍の病態生理、診断、治療の研究 5. アトピー性皮膚炎の病態生理、診断、治療の研究 6. 皮膚をターゲットとした再生医療、創傷治癒の研究 7. 遺伝子治療、蛋白補充療法などの研究
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	本間　明宏	1. 感音難聴の病因論に関する基礎的・臨床的研究 2. ウイルス感染による感音難聴の基礎的・臨床的研究 3. 鼻アレルギーの基礎的・臨床的研究 4. 好酸球性副鼻腔炎の基礎的・臨床的研究 5. 悪性腫瘍の免疫学的研究 6. 頭頸部癌に対する化学療法の基礎的・臨床的研究 7. 頭頸部悪性腫瘍の分子生物学的研究
	眼科学	石田　　晋	1. 網膜細胞生物学 2. 眼免疫と炎症 3. 眼における神経保護 4. 眼腫瘍病理学 5. 眼表面疾患の病態生理および治療 6. 眼循環代謝学
	精神医学	加藤　隆弘	1. 精神疾患に関する神経免疫学的研究（ミクログリア） 2. 精神疾患のリバーストランスレーショナル研究（脳画像・血液バイオマーカー） 3. 精神疾患の多元的診断および治療法の開発（ひきこもり・気分障害・てんかん含む） 4. 精神疾患の治療技法の開発（精神分析・認知行動療法・デジタル技術の応用） 5. 精神疾患の精神病理学的研究（対人恐怖症・ひきこもり・摂食障害・犯罪・自殺） 6. 向精神薬の開発と精神薬理学的研究 7. 精神疾患の神経生理学的ならびに神経心理学的研究
	脳神経外科学	藤村　　幹	1. 悪性脳腫瘍の基礎的・臨床的研究 2. 脳血管障害の基礎的・臨床的研究 3. 脊髄外科の基礎的・臨床的研究 4. 中枢（脳および脊髄）神経再生の橋渡し研究 5. 頭蓋底外科の臨床外科解剖 6. 脳血管障害の遺伝学的研究 7. 脳循環代謝の病態生理学的研究 8. 小児神経疾患の臨床研究
	神経内科学	矢部　一郎	1. 神経疾患の遺伝子解析および分子生物学的研究 2. 神経・筋疾患の組織化学的研究 3. 免疫性神経疾患の発症機序および治療法に関する基礎的研究 4. 神経疾患のバイオマーカー開発に関する研究 5. 臨床神経電気生理学 6. 神経疾患における認知機能障害 7. 神経疾患の疫学に関する研究
	未来型遠隔医療開発・実践（寄附分野）※1	岩崎　倫政（兼）	1. 遠隔医療における触診技術の開発・臨床応用 2. 遠隔医療における通信網整備と法整備 3. 新規デジタル医療機器および AI サポートの医療技術の臨床応用
	膝関節機能再建（産業創出分野）※1	岩崎　倫政（兼）	1. 変形性膝関節症に対する新規関節温存手術手技の開発 2. 新規膝関節機能の評価方法の開発 3. 膝機能に応じた関節温存手術システムの構築
	バイオマテリアル機能再生（産業創出分野）※1	岩崎　倫政（兼）	1. 低侵襲な運動器再生治療法の開発 2. 運動器疾患治療用の次世代デバイスの開発 3. 低侵襲運動器再生治療のためのトレーニング法の考案 4. バイオマテリアルと細胞による併用療法の評価
連携医学系	神経生物学	神谷　温之	1. 軸索の神経生物学 2. シナプスの神経生物学

	教室名	教　授	主要研究内容
	免疫生物学 ※2	清野　研一郎	1. 腫瘍免疫に関する基礎的・臨床的研究 2. 移植免疫に関する基礎的・臨床的研究（遺伝子改変ブタを用いた異種移植含む） 3. 炎症性疾患に対する細胞療法の研究開発
	分子神経免疫学 ※2	村上　正晃	1. IL-6 アンプによる炎症の慢性化と病気の関係の解析 2. ゲートウェイ反射の分子機構の解明による心理免疫学の創成 3. ニューロモデュレーションによる病気治療法の開発 4. SNP による組織特異的な炎症誘導機構の解明 5. 組織特異的な微小炎症の検出系と治療法の開発
	生命分子機構 ※2	野田　展生	1. オートファジーの分子機構の研究 2. 液－液相分離が制御する生命現象の研究 3. 構造に基づいた生体分子の作動機構の研究
	幹細胞生物学 ※2	近藤　　亨	1. 神経幹細胞/前駆細胞の多能性・分化の分子機構に関する研究 2. 幹細胞/前駆細胞の老化の分子機構についての研究 3. がん幹細胞の性状解析と治療標的についての研究 4. 加齢性疾患と神経幹細胞/前駆細胞の関係に関する研究
	がん制御学 ※2	園下　将大	1. がん発生機序の研究 2. がん薬物耐性獲得機序の研究 3. 新規がん治療薬シーズの開発

センター・施設

連携研究センター「フラテ」（設置：2006 年 4 月 1 日）

生命科学基盤研究の成果を臨床研究へ発展させるための研究を行い、医学・医療および健康維持に貢献することを目的に設置されました。

本センターは、「医学研究院医理工学グローバルセンター（GICORE 協力拠点）」の大型研究プロジェクト等に対して研究支援を行っています。また、多分野にわたる研究チームが協力して研究を推進することにより、医学・生命科学と理工学の融合領域において世界をリードする多くの成果が得られています。

2017 年度から医学研究科改組により部門が分野、分野が教室と名称が変更になりました。2020 年度からは「分子・細胞機能イメージング分野」「療養・就労両立医学分野」が、2021 年度からは「医療 AI 教育研究分野」が新たに設置され、2021 年度をもって所定の目的を達成した「光バイオイメージング分野」「療養・就労両立医学分野」が、2024 年度をもって「医療 AI 教育研究分野」が廃止となり、現在 3 分野で活動しています。

■組　織

2025 年 4 月 1 日現在

再生医学・組織工学分野　分野長　田中　伸哉

合理的な関節機能再生・再建医療を実現するための新しい総合治療戦略の実現に取り組んでいる研究分野です。

- 腫瘍病理学教室
- 統合病理学教室
- 整形外科学教室

人対象医学研究推進分野　分野長　玉腰　暁子

人々の健康の保持増進、疾病からの回復および生活の質の向上に資するために、人を対象とした研究を行っている研究分野です。

- 公衆衛生学教室
- 医学統計学教室
- 衛生学教室
- 北海道大学病院　医療・ヘルスサイエンス研究開発機構　臨床研究開発センター
- 北海道大学病院　医療・ヘルスサイエンス研究開発機構　データサイエンスセンター

分子・細胞機能イメージング分野　分野長　工藤　與亮

分子・細胞レベルの機能イメージングを用いて分子・組織機能を明らかにし、生体機能や疾患病態の解明を目指す研究分野です。

- 画像診断学教室
- 免疫・代謝内科学教室
- 遺伝子病制御研究所　分子神経免疫学分野

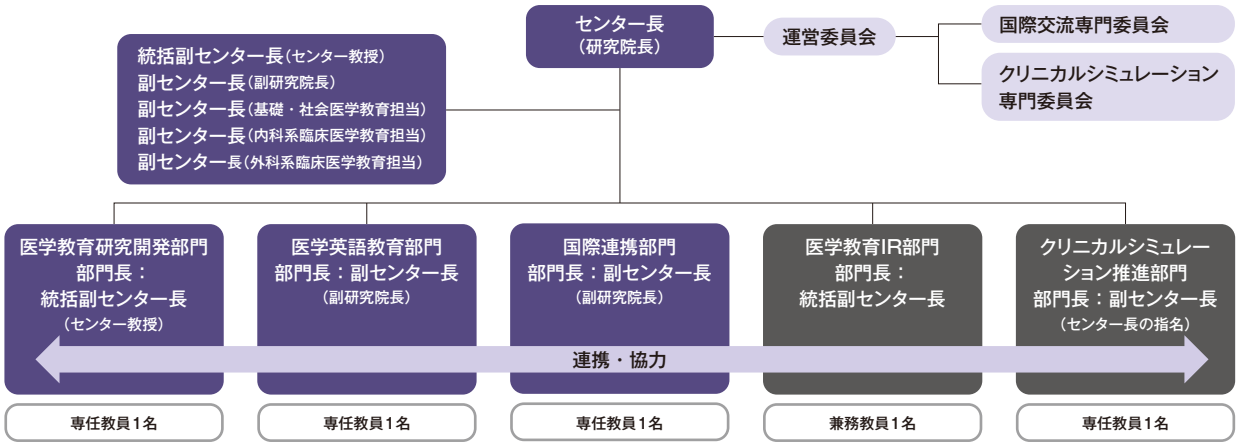
〔基盤教室〕医学研究院の基幹講座（附属教育研究施設を含む）の中から選考した、連携教室と密接な関係を持つ教室

〔協力組織〕医学研究院以外の部局等から基盤教室と連携教室が連携して行うプロジェクト研究に協力する組織

医学教育・国際交流推進センター（設置：2010 年 9 月 1 日、改組：2025 年 4 月 1 日）

2025 年 4 月 1 日現在

本センターは、医学研究院において医学教育およびシミュレーション医療教育に関する研究開発を行うとともに、医学院および医学部医学科における教育および海外大学等との連携に係る施策ならびに医療用シミュレーターを用いた教育、訓練、研修等についての企画、立案および調整等を行うことにより、医療に関連する本学の学生および教職員等の実践的な臨床能力の向上を図るとともに、本研究院、本学院および本学科の医学教育および国際交流の推進に資することを目的とする。



運営委員会

重要事項の審議を目的とする
(1)教員の人事に関すること
(2)予算および決算に関すること
(3)国際交流に関すること
(4)センターの事業に関すること
(5)センターの行事に関すること
(6)その他センターに関する重要事項

センター会議

北海道大学大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センターにおいて企画・立案された事業、行事等についての具体的な実施方策を検討し、センターと大学院医学研究院、大学院医学院、医学部医学科および北海道大学病院との連携を図りながら事業等を実施することを目的として、センター会議を置く。

【業　務】

■医学教育研究開発部門

医学教育研究開発部門は、医学教育についての研究開発を行うとともに、医療に関連する本学の学生および教職員等の実践的な臨床能力の向上を目指して、共用試験（CBT、OSCE）の運営および管理、教員研修（Faculty Development, FD）の企画、立案および実施を行っています。また当部門は、臨床実習前準備教育（4 年次「診断学実習」）、臨床実習（5 年次「診療参加型コア科臨床実習」）、臨床実習指導医研修を企画、運営し、医学部医学科の診療参加型臨床教育の推進に貢献しています。

■医学英語教育部門

医学英語教育部門は、1）医療コミュニケーション（医師と患者間のコミュニケーションおよび医師間コミュニケーション）、2）医学研究、3）臨床スキル（診察、臨床推論、患者安全）の 3 つのコアな英語能力を強化することを目標とし、医学英語を通じて、基礎的な医学知識から高度な臨床スキル、さらには職能開発まで、統合されたカリキュラムを提供しています。当部門は、医学生向けには 2 年次「医学英語演習」を開講するとともに、医学教育研究開発部門と連携して、3 年次「医学研究演習」や 6 年次「多職種連携・シミュレーション実習」にも関与しています。加えて、国際的な視野を持った次世代の医師を育成するため、意欲的な医学生のグループ「DREAMERS」を設立し、国内外の保健医療に貢献する人材の育成を目指しています。学生（学部生や大学院生）および医学部教職員向けには、最先端のウェブセミナーを開催し、教育と研究の最新の動向を共有しています。すべての学生が共感力に富み、スキルに長け、専門性が高く、グローバルな視野を持つ医師に成長できるよう努め、地域社会と国際社会のニーズに即した医療の未来に貢献することを目指しています。

チーム基盤型学習

医学英語演習

シミュレーション教育

■医学教育 IR 部門

医学教育 IR 部門は、医学部医学科の教育データの収集および分析と、医学教育についての情報収集を行うことを目的に 2025 年 4 月に新設されました。総合 IR 本部教学部門と連携し、データ収集および分析を実施していきます。

■クリニカルシミュレーション推進部門

北海道大学大学院医学研究院クリニカルシミュレーションセンター（2025 年 4 月から医学教育・国際交流推進センタークリニカルシミュレーション推進部門）は、医系多職種連携教育研究棟の 2・3・5 階にわたる約 1,234m^2 のフロアに、診療研修室 9 室、高度シミュレーション室 2 室、セミナー室 7 室などを備える学内最大規模のシミュレーション教育拠点です。シミュレーターや模擬患者を用いた実践的なトレーニングを通じて、医学生・歯学生・薬学生・看護学生・保健学科学生に加え、研修医や看護師、薬剤師など幅広い職種が OSCE、外科・救急・集中治療手技、医療安全などを安全かつ反復的に習得可能です。館内には有線・無線 LAN、マジックミラー、録画・配信設備が整備されており、シミュレーション後の客観的フィードバックや遠隔指導にも対応しています。2016 年 4 月の開設以来、質の高い医療人育成と医療安全文化の醸成を担う中核施設として、学内外の教育・研究・地域医療連携を推進しています。

■国際連携部門

国際連携部門は、近年のグローバル化の潮流の中、医学部医学科・大学院医学院および医学研究院の国際的なプレゼンスをさらに高めることを目的に、教育および研究の国際化を推進する部署として設置されました。

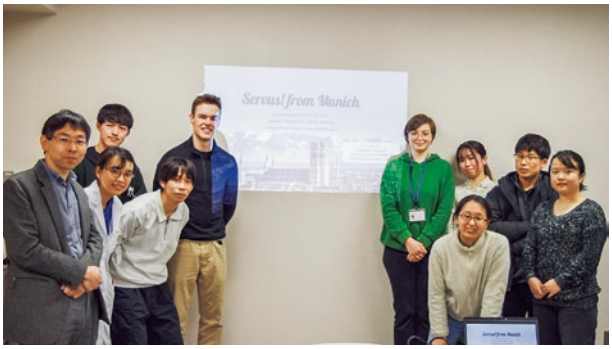
教育面では、本学医学部生の海外大学への派遣（アウトバウンド）および海外からの留学生の受け入れ（インバウンド）を通じて、医療専門職として世界で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。緊密かつ持続可能な国際交流の実践には、海外の大学および研究機関との強固なパートナーシップが欠かせません。医学生の派遣や留学生の受け入れが円滑かつ活発に行われ、時代のニーズに沿った質の高い教育が提供できるよう、海外の優れた施設を対象に大学間・部局間交流協定を締結し、積極的に交換留学生の派遣・受け入れを支援しています。コロナ禍の影響で 2020～2022 年の間、海外協定校との留学生の派遣・受け入れの一時休止を余儀なくされましたが、この休止期間を活用して、コロナ禍でも国際交流活動を安全かつ確実に実施できるよう、派遣・受け入れプログラムの見直しや危機管理体制の整備をすすめ、2023 年度以降、本学 6 年次学生の海外への派遣と、海外協定校からの留学生の臨床実習受け入れを段階的に再開しました。

研究面では、大学院医学院に在籍して研究者としてのキャリアを歩み出した留学生の側方支援を担当しています。さまざまな国から留学している大学院生が本学院博士課程および修士課程に在籍し、母国とは大きく異なる環境の中で学んでおり、彼らが安心して留学生活を送れるよう、常勤スタッフ・留学生サポートスタッフで協力しながら対応しています。

このような取組みについては、定期的にニュースレター「国際連携部門だより（VIS：Voice of the International Students）」を発行して学内外に広く周知し、更なる国際化の推進を目指して活動を続けています。

国際連携部門

香港城市大学学長表敬訪問



留学生との交流

附属動物実験施設 （設置：1972 年 5 月 1 日）

生命科学研究のための動物実験を支援することを目的に、設置されました。2014 年度には大規模改修も行われました。

■飼育可能な動物種
マウス、ラット、ウサギ、イヌ、ブタ、ヒツジ、サル他

■飼育・実験室
各種動物の専用飼育室、手術・実験処置室、行動解析室、生体試料解析室、感染実験室、X 線照射室、イメージング室

■解析装置
X 線照射装置、in vivo イメージング装置、二光子顕微鏡

■技術提供
基本技術研修、系統保存（凍結胚、精子保存）、系統維持、生殖工学（胚・精子凍結、個体作出）、麻酔導入サポート、実験動物への実験・治療支援

施設利用登録教室数（2025 年 3 月現在）

	分野数	登録者数
医学研究院	35	261
学内他研究院等	12	87

施設利用者数（2024 年度）

利用者数 （2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）	30,816
1 日平均利用者数	84

医学研究院・医学院・医学部図書館 （設置：1970 年 12 月）

■蔵書数（2025 年 3 月 31 日現在）

区　分	和　書	洋　書	計
図書（冊）	53,230	93,639	146,869
雑誌（種）	3,262	2,485	5,747

■利用状況（2024 年度）

入館者総数（人）	通常開館時 特別利用時 **計**	24,075 4,947 29,022
開館日数（日）		243
貸出者数（人）	教職員 学生 **計**	726 3,743 **4,469**
貸出冊数（冊）	教職員 学生 **計**	1,039 4,504 **5,543**
文献複写（件）	依頼 受付	552 197
図書館間相互利用（冊）	借受 貸出	4 6
閲覧座席数（席）		48

■開館時間（2025 年度）
通常開館　平日　9：00～22：00
8・9・3 月　9：00～17：00

特別利用　平日　5：00～9：00
8・9・3 月　5：00～9：00 ／ 17：00～22：00
土日祝日　5：00～22：00
特別利用は登録申請が必要です。

■休館日
土曜・日曜・祝日
年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

北海道大学医歯学総合研究棟 （設置：2004 年 3 月 1 日）

医歯学総合研究棟は医学および歯学の 2 部局により共同で運営される、北大でもユニークな施設です。
ここでは学部教育と大学院教育が行われています。

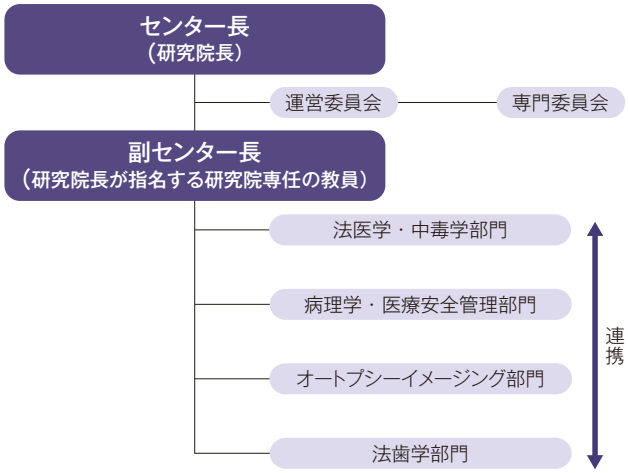
■教育実習部門
解剖実習室、組織・病理学実習室、生化学・細菌学実習室、生理学・薬理学実習室、法医解剖室（死因究明教育研究センター）、理工学実習室、情報学実習室

■中央研究部門
細胞生物学分野、分子生物学分野、超微細形態学分野、脳機能解析分野

■実験生物部門
小動物飼育室、小動物処置室、トカゲ飼育室、共通動物実験室

■オープンラボ

死因究明教育研究センター（2016 年 4 月 1 日設置）
死因究明等* に関する教育研究や、人材育成に係る教育プログラムを開発・実施するとともに、学内外の関係機関と連携し、死因究明等に関する知識の共有化および診断技術の向上を図ることを目的として設置されました。
＊解剖および死後画像診断による死因究明、歯科所見による身元確認ならびに臨床法医学に基づく犯罪、虐待、事故等への適切な対応等



【センター業務】
（1）法医解剖、死体検案等の実施および解剖実施者、解剖補助者等の育成に関すること
（2）死亡時画像診断の撮影および読影ならびに死後画像診断を活用した死因究明に関すること
（3）病院内死亡事例、医療事故調査等に係る死因究明および法医学の基礎知識を有する病理医の育成に関すること
（4）歯科所見に基づき、身元確認や児童虐待等の早期発見ができる人材の育成に関すること
（5）虐待や傷害事件等における診断に携わる人材の育成に関すること
（6）その他死因究明等に関すること

【運営委員会】
（審議事項）
（1）教員の人事に関すること
（2）予算および決算に関すること
（3）教育プログラムに関すること
（4）その他センターに関する重要事項

医系多職種連携教育研究棟 （設置：2016 年 4 月 1 日）

医系多職種連携教育研究棟は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療関連職種の学生と職員が共に学ぶ「多職種連携教育」の推進を目的とする施設です。ここには、医学教育・国際交流推進センタークリニカルシミュレーション推進部門のほか医療イノベーションセンター等を設置しています。

■設置施設等

東棟

2 階 -3 階、5 階　医学教育・国際交流推進センター クリニカルシミュレーション推進部門

医学部（医学科、保健学科）、歯学部、薬学部の学生および病院職員（医師、看護師、薬剤師等）へのシミュレーション教育を実施します。

1 階、3 階 -4 階　医療イノベーションセンター

「未来創薬・医療イノベーション拠点形成」事業の成果として、医療イノベーションセンターを設置し、本学研究者と各企業が連携して産学連携に関する最先端の融合教育研究を推進します。

西棟

2 階 -3 階　医系部局学部生等スペース

医学部（医学科、保健学科）、歯学部、薬学部の学部生等が利用するセミナー室を置き、北大病院における実習、カンファレンス、自習等を行います。

北海道大学病院

2025 年 4 月 1 日現在

北海道大学病院は、良質な医療を提供すると共に、優れた医療人を育成し、先進的な医療の開発と提供を通じて社会に貢献するという理念を掲げ、(1) 患者本位で安心・安全な医療の提供、(2) 人間性豊かで自律した医療人の育成、(3) 先進的かつ高度な医療の開発と提供、(4) 未来を見据えた地域医療・地域社会への貢献という基本方針を基づき、医科・歯科の高度・良質な統合的医療に基づく全人的医療の提供ならびに全人教育を実践していく。

(医　科)

診療科	病床数	診療状況(2024 年度実績)	
		外来患者数	入院患者数
呼吸器内科	47	20,232	14,872
糖尿病・内分泌内科	7	22,533	2,392
リウマチ・腎臓内科	34	35,823	11,567
消化器内科	50	40,412	16,962
循環器内科	34	21,133	12,653
血液内科	37	15,488	12,553
腫瘍内科	17	6,488	6,378
消化器外科Ⅰ(小児外科含)	44	9,633	12,939
消化器外科Ⅱ	27	5,020	9,943
心臓血管外科	21	3,264	5,665
呼吸器外科	9	2,675	3,314
整形外科	58	27,169	20,689
泌尿器科	30	22,003	10,252
麻酔科	1	19,458	15
形成外科	20	7,149	6,823
乳腺外科	11	10,620	4,970
救急科	20	2,027	5,685
脳神経内科	23	14,209	8,623
眼科	33	30,604	12,343
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	35	17,112	12,951
皮膚科	20	16,546	6,602
精神科神経科	40	32,625	11,560
脳神経外科	36	9,197	12,592
リハビリテーション科	5	66,790	1,349
産科	42	9,349	15,218
婦人科	23	21,699	7,613
小児科	31	16,905	9,752
放射線治療科	17	23,524	5,092
放射線診断科	1	56,624	245
核医学診療科	8	5,197	1,730
共通床	10	—	(373)※3
集中治療室 (ICU)	11	—	(2,852)※4
救命救急センター	(5)※1	—	(2,254)※4
高度治療室 (HCU)	20(15)※1	—	—※5
新生児集中治療室 (NICU)	9	—	(3,184)※4
新生児治療回復室 (GCU)	(11)※2	—	(2,341)※4
母体胎児集中治療室 (MFICU)	(3)※2	—	(1,081)※4
高度無菌室	6	—	(1,167)※4
合　計	**822**	**591,508**	**263,297**

※1　救命救急、HCU 病床数 (　) 内は救急科病床数の内数
※2　GCU/MFICU 病床数 (　) 内は産科病床数の内数
※3　共通床 入院患者数は各診療科入院患者数の内数
※4　ICU/ 救命救急 /NICU/GCU/MFICU/ 無菌室
　　入院患者数 (　) 内は各診療科入院患者数の内数
※5　高度治療室 (HCU) が 2025 年 4 月より稼働

(歯　科)

診療科	病床数	診療状況(2024 年度実績)	
		外来患者数	入院患者数
予防歯科	21	5,418	6,627
歯周病科		10,789	
クラウン・ブリッジ歯科		19,173	
高齢者歯科		10,300	
小児・障がい者歯科		12,471	
矯正歯科		11,129	
むし歯科		17,932	
義歯科		12,517	
口腔内科		13,680	
口腔外科		10,330	
歯科放射線科		4,361	
歯科麻酔科		1,991	
高次口腔医療センター		7,071	
口腔総合治療部		5,264	
合　計	**21**	**142,426**	**6,627**

(医科歯科総計)

診療科	病床数	診療状況(2024 年度実績)	
		外来患者数	入院患者数
		延数	延数
総　計	**843**	**733,934**	**269,924**

※承認病床数は 894 床

(司法精神医療センター)

診療科	病床数	診療状況(2024 年度実績)	
		外来患者数	入院患者数
		延数	延数
司法精神医療センター	23	—	6,853
合　計	**23**	**—**	**6,853**

※承認病床数は 23 床

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」

陽子線治療センター治療室

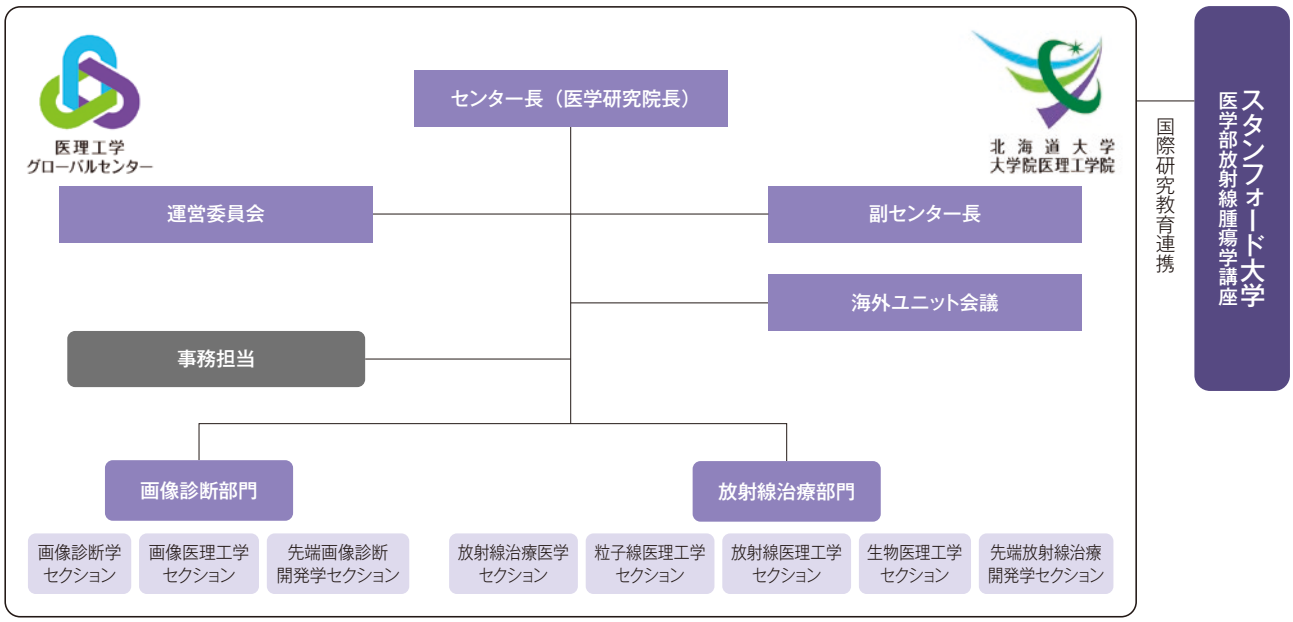
ロボット手術 (術中風景)

医理工学グローバルセンター（設置：2020 年 4 月 1 日）

2014 年 4 月の設置以来、6 年間にわたり総長直轄の組織として運営してきた国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションの活動を引き継ぎ、スタンフォード大学をはじめとする世界屈指の大学や研究所等と連携し、「量子、原子、加速器等に関する量子理工学の知識・技術を医学に活かす放射線治療、粒子線治療等」ならびに「生体内の分子挙動等に関する理工学の知識・技術を医学に活かす分子画像学、分子生物学、放射線生物学等」の研究を行うとともに、理工学に基づく医療機器や技術の研究開発および品質管理を行うことができる国際的視野を備えた人材養成を大学院医理工学院にて行うことを目的に設置されました。

また、本センターは「GI-CoRE 協力拠点」の認定を受け、GI-CoRE と連携しながら研究教育活動を継続しています。

医学研究院　医理工学グローバルセンター　組織体制

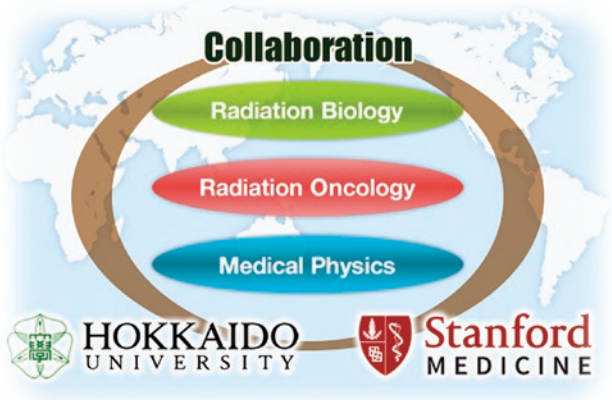


〈センターの業務〉

（1）医理工学についての研究および教育の実施に関すること
（2）理工学に基づく医療機器および技術の研究開発および品質管理に関すること
（3）国際連携教育プログラムに関すること
（4）国内外の大学、研究所等との施設連携に関すること
（5）その他医理工学についての教育および研究開発に関すること

〈運営委員会〉

（審議事項）
（1）教員の人事に関する事項
（2）予算および決算に関する事項
（3）国際連携教育プログラム（サマーインスティテュート・サマースクールを含む）に関する事項
（4）その他センターの運営に関する重要事項



医理工学
グローバルセンター
Global Center for
Biomedical Science and Engineering

教育研究支援

広報室（設置：2007 年 4 月 1 日）

目的・活動概要

広報室は、医学研究院、医学院、医学部医学科に関する学術広報、アウトリーチ活動を積極的かつ効果的に行うことを目的に設置されました。
具体的には、本研究院・学院および医学部医学科の広報全般に関する企画および立案を行いながら、各種広報媒体を企画・制作し、同時にウェブサイトの管理・運営等を通した情報環境の整備に関することなどを中心に活動しています。

●広報室で制作・管理・運営を担当している公式媒体

- 医学研究院・医学院・医学部医学科「概要」（日本語版、英語版）
- 医学部医学科案内
- 医学部医学科紹介 DVD
- 医学部医学科 / 大学院医学院 / 大学院医理工学院 / 大学院医学研究院ウェブサイト

研究戦略室（設置：2014 年 4 月 1 日）

目的・活動概要

研究戦略室は、北海道大学の研究戦略を踏まえた企画および立案を行い、医学研究院・医学院・医学部医学科の研究活動に関して、効率的な推進と円滑な実施を図るために設置されました。

本室では、研究に関する将来構想に関すること、研究支援、研究プロジェクト、産学官連携の推進に関すること、中期計画や年度計画に関する事項、研究関連予算に関連する事項について、推進・支援を行っています。

広　報

プレスリリース（2024 年度）

リリースタイトル	研究者名	リリース日
脳梗塞に対する再生医療等製品 HUNS001 の医師主導治験（RAINBOW 研究）の結果が論文公表されました【北海道大学病院】	北海道大学病院　脳神経外科 助教　川堀　真人	2024 年 4 月 19 日
軟骨変性の初期に修復機転（正常に戻る）が存在することを証明～早期変形性膝関節症の予兆の発見に期待～	教授　岩﨑　倫政 准教授　小野寺　智洋 博士研究員　宝満　健太郎	2024 年 4 月 23 日
稀少遺伝性自己炎症性疾患：OTULIN 関連自己炎症症候群の新たな病態を解明～既報の疾患に新たな視点を追加し、未診断患者の診断や炎症・細胞死研究の進展に期待～	特任助教　植木　将弘	2024 年 4 月 24 日
妊娠中の室内環境要因と 3 歳までの小児湿疹の発症リスクとの関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	環境健康科学研究教育センター 特任准教授　アイツバマイ　ゆふ	2024 年 5 月 10 日
伸びが止まっても綺麗な爪を保つ冬眠	准教授　夏賀　　健	2024 年 5 月 13 日
尿路の障害に対し、動物とヒトは共通した機構で応答する～新しい考え方：尿は壊れた尿路から生体に戻り、17 型コラーゲンを介して尿路の修復が始まる～	准教授　夏賀　　健	2024 年 5 月 20 日
本邦における COVID-19 流行が小児の病院外心停止症例に与えた影響の解明～一般市民による救命活動の重要性の再評価～【北海道大学病院 HP】	北海道大学病院　小児科 特任助教　永井　礼子	2024 年 5 月 24 日
ナノポアシークエンス解析により日本人における SCA27B の遺伝学的特徴を解明【北海道大学病院 HP】	教授　矢部　一郎 准教授　矢口　裕章	2024 年 5 月 31 日
SARS-CoV-2 関連コロナウイルス BANAL-20-236 株のウイルス学的特性の解析	教授　田中　伸哉 教授　福原　崇介	2024 年 6 月　6 日
脳出血に対する再生医療等製品 HUFF-01 の研究開発～医師主導治験 RAINBOW-Hx 研究、第 1 例目の投与終了～【北海道大学病院 HP】	助教　川堀　真人	2024 年 6 月　7 日
細胞内代謝産物が滑膜線維芽細胞を抑制し関節炎モデルを改善～関節リウマチの新規治療薬候補を発見～	北海道大学病院 講師　河野　通仁	2024 年 6 月 12 日
“脂肪肝から肝がんになりやすい人” を見分ける新指標―肝がんの早期発見・早期治療へ期待【北海道大学病院 HP】	講師　須田　剛生	2024 年 6 月 18 日

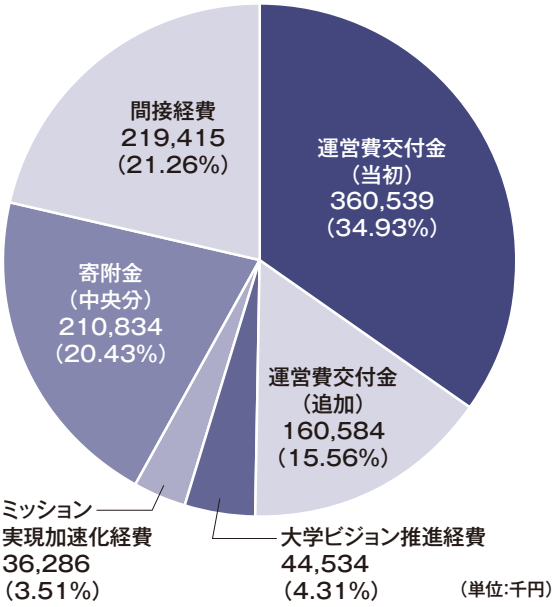
リリースタイトル	研究者名	リリース日
外陰部皮膚がんの薬剤耐性の仕組みを解明～治療開発への貢献に期待～	客員研究員　柳　　輝希 教授　氏家　英之	2024 年 7 月 12 日
皮膚の細胞は飢餓状態にあると自ら模様を作る～皮膚の再生医療への貢献に期待～	准教授　夏賀　　健	2024 年 7 月 19 日
がん抑制の分子メカニズム解明に新局面～ゲノム異常の原因解明に期待～	講師　及川　　司	2024 年 7 月 24 日
脊髄の二次損傷を抑制する脊髄損傷治療薬候補物質を同定～脊髄損傷の治療薬導出に向けて、ティムス（日本）と特許ライセンス契約を締結～	特任准教授　角家　　健	2024 年 7 月 24 日
妊娠中に母親が過ごした自宅床材とその出生児童の小児喘息への影響についての解析：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	環境健康科学研究教育センター 特任准教授　岩田　啓芳	2024 年 8 月　2 日
水疱性類天疱瘡の発症に関与するタンパク質を解明～水疱性類天疱瘡に対する治療薬の開発に期待～	教授　氏家　英之	2024 年 9 月 25 日
B 型肝炎ウイルス既往感染肝がん患者の予後予測に新たな一手～高感度 HBs 抗原測定が示す新たな予後指標の可能性～【北海道大学病院 HP】	講師　須田　剛生	2024 年 10 月　1 日
社会認知の主観的困難と客観的能力に基づく統合失調症患者における臨床的サブタイプを明らかに【北海道大学病院 HP】	准教授　橋本　直樹	2024 年 10 月 30 日
ナルコレプシーの過眠症状に有効な治療標的を発見～新たな過眠症治療薬の開発に期待～	教授　吉川　雄朗	2024 年 11 月 14 日
尿検査で膵臓がんを早期発見可能に！～尿中マイクロ RNA で膵臓がんを高精度に検知～	助教　中村　　透	2024 年 11 月 18 日
DPP-4 阻害薬が関連する水疱性類天疱瘡は通常の水疱性類天疱瘡と異なる特徴を有する～病態解明への貢献を期待～	教授　氏家　英之	2024 年 11 月 26 日
神経膠芽腫幹細胞に有効な抗体薬物複合体の作製に成功～副作用の少ない、神経膠芽腫の新規治療法の創出に期待～	教授　近藤　　亨	2024 年 11 月 27 日
脳梗塞慢性期に対する再生医療等製品 HUNS001 の第 I/IIa 相医師主導治験（RAINBOW2a 研究）が開始されました【北海道大学病院】	助教　川堀　真人	2024 年 12 月　2 日
末梢性 T 細胞リンパ腫の新規治療標的の解明～BV と APC/C 阻害薬の併用投与による新たな治療法開発に期待～	助教　中川　雅夫	2024 年 12 月　9 日
傷付いた軸索を再生する分子を発見～有効な末梢神経再生方法の開発に期待～	特任准教授　角家　　健	2024 年 12 月 10 日
新生児スクリーニングを契機に無症状で診断された重症複合型免疫不全症患者が造血細胞移植を受けて回復～北海道で初の新生児スクリーニングから診断につながった患者の報告～【北海道大学病院 HP】	特任助教　植木　将弘	2025 年 1 月 21 日
脂肪肝による肝線維化を識別する糖鎖マーカーを発見～糖鎖とタンパク質を利用した簡易診断系の開発に期待～【北海道大学病院 HP】	講師　須田　剛生	2025 年 1 月 23 日
抗精神病薬による体重増加の発生に関わる要因を同定～抗精神病薬による体重増加の発生予防への応用に期待～【北海道大学病院 HP】	准教授　橋本　直樹	2025 年 1 月 24 日
歩行動画から小脳性運動失調の重症度評価を行う AI の開発～遠隔診療や新薬開発臨床試験での有効性評価などへの応用に期待～	教授　矢部　一郎	2025 年 1 月 30 日
肝硬変に対する新規自己マクロファージ療法に関する研究開発～肝移植を補完する新たな治療方法の提案～	教授　清野　研一郎	2025 年 1 月 30 日
母体血中金属濃度と咽頭炎（溶連菌）との関連　子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	環境健康科学研究教育センター 特任准教授　岩田　啓芳	2025 年 3 月　7 日
肥満のカギを握る腸内古細菌と糞便中グリココール酸濃度～腸内古細菌の枯渇と糞便中グリココール酸濃度の上昇が肥満と相関することを解明～	助教　山村　凌大	2025 年 3 月 10 日
多能性幹細胞の免疫寛容誘導に関する新機能を発見～多能性幹細胞を用いた移植医療（再生医療）への応用・発展が期待～	教授　清野　研一郎	2025 年 3 月 11 日

※医学部 web サイトに掲載されており、プレスリリース公開当時、医学部に籍のある教員等を掲載対象としています。
※セミナー開催等、イベント情報に関するプレスリリースは掲載しておりません。

プレスリリースの詳細、最新情報は医学部 web サイトをご覧ください。
https://www.med.hokudai.ac.jp/press_release/

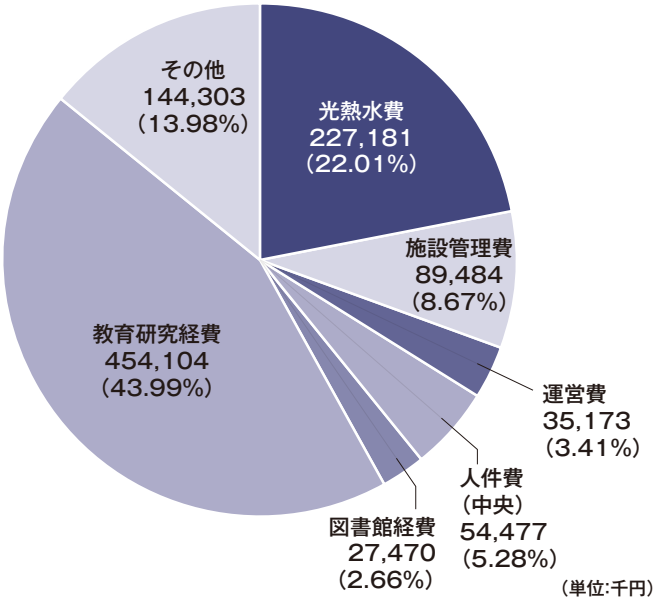
2024 年度　収入・支出総額

■収　入
1,032,192 千円



(単位:千円)

■支　出
1,032,192 千円



(単位:千円)

外部資金受入／科学研究費助成事業等 (2024 年度)

■外部資金受入

区　分	医学研究院		大学病院	
	件数(件)	受入金額(千円)	件数(件)	受入金額(千円)
共同研究	67	163,663	55	234,794
受託研究	137	1,274,322	78	372,090
その他補助金等	12	86,061	43	828,454
その他受託事業等収入	—	154,186	540	1,079,423
寄附金収入	343	529,804	189	169,989
合　計		**2,208,036**	**905**	**2,684,751**

(注) 補助金の受入金額は外部機関への二次的交付を含む
(注) 受託研究は競争的資金を含む
(注) その他受託事業等収入の内訳
　　病的材料検査料金等を含む

■科学研究費助成事業（2024 年度）

研究種目	医学研究院				大学病院			
	件数（件）	交付金額（千円）			件数（件）	交付金額（千円）		
		直接経費	間接経費	合　計		直接経費	間接経費	合　計
学術変革領域研究（A）	5	67,400	20,220	87,620	0	0	0	0
基盤研究（S）	2	80,000	24,000	104,000	0	0	0	0
基盤研究（A）	0	0	0	0	1	7,900	2,370	10,270
基盤研究（B）	28	124,900	37,470	162,370	7	28,759	7,350	36,109
基盤研究（C）	84	89,850	26,955	116,805	62	66,900	20,070	86,970
挑戦的研究（萌芽）	6	13,000	4,050	17,050	0	0	0	0
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	3	11,900	3,480	15,380	0	0	0	0
若手研究	60	60,200	18,060	78,260	54	66,500	19,950	86,450
研究活動スタート支援	11	7,300	2,190	9,490	6	7,500	2,250	9,750
特別研究員奨励費	4	7,200	800	8,000	2	920	0	920
合　計	**203**	**461,750**	**137,225**	**598,975**	**132**	**178,479**	**51,990**	**230,469**

（注）科学研究費助成事業について、学外の研究分担者に配分した金額を含め、研究分担者として学外から受け入れた件数・金額は含まない。
　　また、過年度から繰越が承認された科学研究費補助金の金額は含まない
（注）項目ごとに四捨五入を行っているため、合計は一致しない

■厚生労働科学研究費補助金

研究事業	医学研究院				大学病院			
	件数（件）	交付金額（千円）			件数（件）	交付金額（千円）		
		直接経費	間接経費	合　計		直接経費	間接経費	合　計
難治性疾患等政策研究事業	0	0	0	0	1	30,770	9,230	40,000
厚生労働科学特別研究事業	0	0	0	0	1	3,254	976	4,230
政策科学総合研究事業	0	0	0	0	1	2,310	690	3,000
合　計	**0**	**0**	**0**	**0**	**3**	**36,334**	**10,896**	**47,230**

（注）厚生労働科学研究費補助金は研究分担者に配分した金額を除き、研究分担者として受け入れた件数・金額は含まない

学生数

2025 年 5 月 1 日現在

（ ）内は女子で内数、〈 〉内は女子の比率
[ ] 内は 2 年次編入学定員で外数
【 】内は新渡戸カレッジ入校生で内数
以下の表は、すべて外国人留学生数を含む

■医学部医学科

入学定員	在籍者数							研究生	特別聴講学生	合　計
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計			
100［5］	—	105【3】	117【4】	125【2】	97【2】	117【1】	561【12】 （146〈26.0〉）	1※	0	562 （146〈26.0%〉）

総合入試の導入により、1 年次は総合教育部に所属
※北海道大学病院所属の指導教員が受入れる研究生

■大学院

区　分	修士課程				博士課程						研究生	特別研究学生	合　計
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数							
		1 年次	2 年次	小計		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	小計			
医学院	20	0 21	21	42 （23〈54.8%〉）	90	94	104	96	201	495 （124〈24.5〉）	0	2	539 （147〈27.3%〉）
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8（5）	0	8 （5〈62.5%〉）
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	11	11 （2〈24.5〉）	0	0	11 （2〈18.2%〉）
合　計	20	21	21	42 （23〈54.8%〉）	90	94	104	96	212	506 （126〈24.5〉）	8（5）	2	558 （154〈27.6%〉）

医学院修士課程 1 年次の上段は公衆衛生学 1 年コースの学生数
医学研究科は 2017 年 4 月学生募集停止

入学状況（2025 年度）

■医学部医学科

（ ）内は女子で内数
[ ] 内は帰国生徒選抜分で外数

入学定員		志願者数	合格者数	入学者数	外国人留学生入学者数
一般選抜	85	298［6］	89	89（25）	0
総合型選抜	5	17	1	1	
合　計	90	315［6］	90	90（25）	0

■大学院医学院

秋入学者は含まない
（ ）内は女子で内数
〔 〕内は外国人留学生で内数

	専攻名	入学定員	志願者数				入学者数			
			本　学	他大学	その他	計	本　学	他大学	その他	計
大学院（修士）	医科学	20	16（7）	15（6）〔4〕	0	31（13）〔4〕	11（4）	9（4）〔3〕	0	20（8）〔3〕
大学院（博士）	医　学	90	43（6）	39（12）〔9〕	0	82（18）〔9〕	41（6）	38（12）〔9〕	0	79（18）〔9〕

卒業・修了者数（学位授与数）

2025 年 5 月 1 日現在

■学士

学位の名称	新制（1991 年の学位規則改正後）		学位の名称	新制（同学位規則改正前）	旧　制	新・旧制合計
	2024 年度（2025 年 3 月卒業）	累計				
学士（医学）	102	3,553	医学士	3,820	2,328	9,701

医学専門部（1939 年～1950 年）：卒業者数 949 名

■修士

区　分	学位の名称	新制（1991 年の学位規則改正後）	
		2024 年度	累計
医学院	修士（医科学）	16	110
	修士（公衆衛生学）	5	55
医学研究科	修士（医科学）	—	357
合　計		21	522

■博士

区　分	学位の名称	新制（1991 年の学位規則改正後）				学位の名称	新制（同学位規則改正前）		旧　制	新・旧制合計
		課程博士		論文博士			課程博士	論文博士		
		2024 年度	累　計	2024 年度	累　計					
医学院	博士（医学）	67	301	0	8					309
医学研究科		1	1,970	0	736	医学博士	658	964	3,081	7,409

進路状況

2025 年 5 月 1 日現在

■医学部医学科

2024 年度卒業者数	2024 年度卒業者の進路別内訳			
	大学院への進学者	就職者	臨床研修医	その他
102	1	0	99	2

■修士

［　］内は北海道内企業等就職者で内数
〈　〉内は北海道内企業等就職者の比率

区　分	2024 年度修了者数	2024 年度修了者の進路別内訳									
		進学者	就　職　者								その他
			研究所	病院（医療技術者、薬剤師など）	製薬会社（研究職、MR など）	医療系企業（研究開発職、専門技術職など）	その他の企業（専門技術職など）	官公庁	その他	計	
医学院	19	5	2［1］	1［1］	2	0	5	0	1	11［2〈18.2%〉］	3
医学院公衆衛生学コース（1 年コース）	2	1	0	1［1］	0	0	0	0	0	1［1〈100.0%〉］	0
合　計	21	6	2［1］	2［2］	2	0	5	0	1	12［3〈25.0%〉］	3

■博士

区　分	2024 年度修了者数（課程）	2024 年度修了者の進路別内訳													
		進学者	就　職　者												その他
			大学		大学病院		一般病院		公的機関	企業	研究機関	留学	帰国（留学生）	計	
			教員	研究員	医師	医療技術者	医師	医療技術者							
医学院	67	0	5［3］	4［1］	14［12］	1［1］	38［32］	0	0	0	1	0	1	64［49〈76.6%〉］	3
医学研究科	1	0	0	0	0	0	1［1］	0	0	0	0	0	0	1［1〈100.0%〉］	0

医師国家試験合格状況（2025 年 2 月実施）

	新　卒				既　卒				合　計			
	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率
第 119 回	102	100	98.0%	95.0%	12	6	50.0%	59.0%	114	106	93.0%	92.3%

医学部医学科 学友会活動

2025 年 7 月 1 日現在

■公認団体（2025 年度）

文化系
フラテ編集部
東洋医学研究会
IFMSA（国際医学生連盟）
アンサンブル・フラテ
軽音楽部
医学部起業部

体育系		
硬式庭球部	羽球部	ハンドボール部
ソフトテニス部	フラテ山の会	バレーボール部
準硬式野球部	アイスホッケー部	ゴルフ部
卓球部	学友会スキー部	弓道部
バスケットボール部	剣道部	医歯薬陸上部
サッカー部	漕艇部	
ラグビー部※	水泳部	

※休部中

文化系

フラテ編集部

IFMSA（国際医学生連盟）

東洋医学研究会

アンサンブル・フラテ

軽音楽部

医学部起業部

体育系

硬式庭球部

ソフトテニス部

準硬式野球部

卓球部

バスケットボール部

サッカー部

体育系

羽球部

フラテ山の会

アイスホッケー部

学友会スキー部

剣道部

漕艇部

水泳部

ハンドボール部

ゴルフ部

弓道部

バレーボール部

医歯薬陸上部

■懇話会

順調かつ有意義な学業生活に資することを目的とし、学生と教員が親しく懇談する場を設けています。
1年次、2年次、4年次に開催。

■医学展

医学科の学生有志が主体となって企画し、北大祭開催期間に実施。
医学部生にとって市民の方々との大切な交流の場となっています。

■フラテ祭（主催 / 医学部　共催 / 医学部同窓会、医学部学友会、北海道大学病院）

同窓生、学生親族等をはじめ医学部とつながりの深い方々をお招きして交流を図るとともに、医学部の活動について理解を深めていただくことを目的に、2007年度から開催。

アンサンブル・フラテによる演奏

福原崇介氏による特別講演の様子

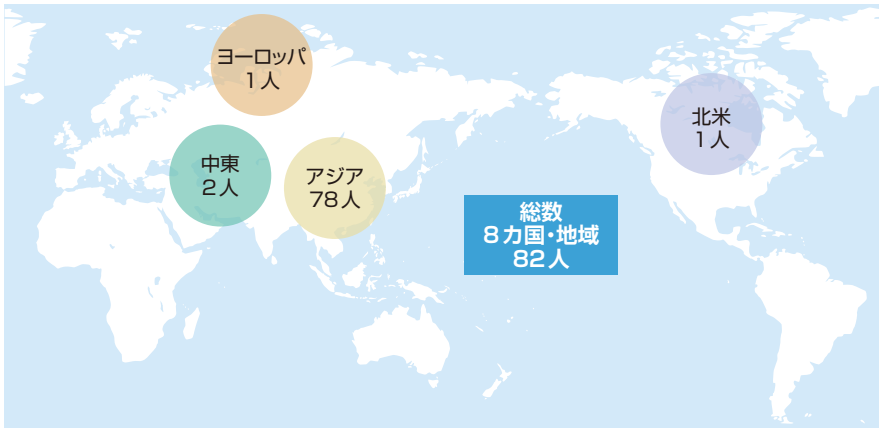
外国人留学生数

2025年5月1日現在

■国・地域別外国人留学生数

地域	国名(地域名)	人数
アジア 78人 95.12%	インドネシア共和国	1
	シンガポール共和国	1
	中華人民共和国	75
	マレーシア	1
ヨーロッパ 1人 1.22%	オーストリア共和国	1

地域	国名(地域名)	人数
北　米 1人 1.22%	カナダ	1
中　東 2人 2.44%	シリア・アラブ共和国	1
	トルコ	1
合　計		82
外国人学生数(「留学」以外)		10



■所属別留学生数

(　)内は女子で内数

学部学生	大学院学生		研究生	特別研究学生	特別聴講学生	合　計	外国人学生数(「留学」以外)	総　数
	修士課程	博士課程						
0	12(7)	60(27)	10(5)	0	0	82(39)	12(7)	94(46)

■経費別留学生数

(　)内は女子で内数

	学　部	大学院	その他	総　計
国費留学生	0	2 (1)	0	2 (1)
私費留学生	0	69 (33)	10 (5)	79 (38)
外国政府派遣留学生	0	1	0	1
合　計	0	72 (34)	10 (5)	82 (39)
外国人学生数(「留学」以外)	7 (5)	5 (2)	0	12 (7)
留学生及び外国人学生総数	**7 (5)**	**77 (36)**	**10 (5)**	**94 (46)**

■外国人研究者の受入れ(2024年度)

区　分	地域	国名(地域名)	人数
訪問外国人研究者(外国人客員研究員)	アジア	インドネシア共和国	1
		シンガポール共和国	1
二国間交流事業(日本学術振興会)	—	—	1
外国人招へい研究者(日本学術振興会)	—	—	0
合　計			**3**

国際交流協定締結状況

2025 年 7 月 1 日現在

■大学間交流協定（責任部局：医学研究院）（8カ国・地域、10協定）

国・地域名		所在地	協定大学名	締結年月日	交流内容
アジア	インド	デリー	デリー大学	2010 年 2 月 26 日	教員および研究者の交流 学生の交流 学術資料、刊行物および情報等の交換 共同研究・シンポジウムの実施
	中華人民共和国	香　港	香港大学（香港）	2025 年 3 月 5 日	
	フィリピン共和国	マニラ	デラサル大学	2009 年 1 月 11 日	
	台　湾	台　北	台北医学大学	2015 年 8 月 28 日	
		台　中	中国医薬大学	2018 年 6 月 21 日	
	タイ王国	サラヤ	マヒドーン大学	2008 年 11 月 26 日	
ヨーロッパ	スイス連邦	ジュネーブ	ジュネーブ大学	2005 年 6 月 7 日	
中　東	アラブ首長国連邦	アル・アイン	UAE 大学	2017 年 7 月 19 日	
アフリカ	ナイジェリア連邦共和国	ヌサカ	ナイジェリア大学	2009 年 1 月 30 日	
		アバカリキ	エボニ州立大学		

■部局間交流協定（14カ国・地域、23協定）

A ＝学術交流　S ＝学生交流　J ＝ジョイントセミナー　L ＝図書館交流

国・地域名		所在地	協定大学名	締結年月日	交流内容
アジア	中華人民共和国	哈爾濱	ハルビン医科大学	1985 年 2 月 26 日	A
		北　京	協和医科大学	1994 年 7 月 14 日	A
		香　港	香港中文大学 医学部	2016 年 11 月 1 日	S
	大韓民国	晋　州	慶尚大学校 医科大学	2015 年 7 月 6 日	A、S
		大邱広域	慶北大学 医学部	2016 年 9 月 27 日	A、S
		ソウル	高麗大学校 医学部	2019 年 3 月 11 日	A、S
	マレーシア	クアラルンプール	マラヤ大学 医学部	2017 年 8 月 29 日	A、S
	シンガポール共和国	ケントリッジ	シンガポール国立大学 医学部	2015 年 5 月 22 日	S
		ナンヤン	ナンヤン理工大学 医学部	2016 年 9 月 15 日	A、S
	台　湾	台　北	国立陽明交通大学 医学部	2017 年 3 月 15 日	A、S
			台北医学大学 医学院 看護学院 公衆衛生・栄養学院 医学科技学院	2012 年 12 月 21 日	A、S
			国立台湾大学 医学部	2016 年 9 月 12 日	A、S
		台　中	中国医薬大学 医学部	2016 年 9 月 26 日	A、S
ヨーロッパ	オーストリア共和国	ウィーン	IAEA（国際原子力機関）	2018 年 11 月 29 日	A、J
	チェコ共和国	プラハ	カレル大学 第一医学部	2008 年 9 月 8 日	A、S
	フィンランド共和国	ヨエンスー	東フィンランド大学 健康科学部	2016 年 11 月 29 日	S
	ドイツ連邦共和国	ハンブルク	ハンブルク大学 医学部	2018 年 1 月 29 日	A、S
		ミュンヘン	ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン 医学部	2018 年 1 月 30 日	A、S
	アイスランド共和国	レイキャビク	アイスランド大学 医学部	2015 年 6 月 23 日	A、S
	イタリア共和国	ヴェローナ	ヴェローナ大学 医学部	2017 年 12 月 21 日	A、S
	スペイン王国	バルセロナ	バルセロナ大学 医学部	2016 年 2 月 2 日	A、S
中　東	トルコ共和国	イズミール	ドクツェイリル大学 医学部	2011 年 10 月 24 日	A、S
	アラブ首長国連邦	アル・アイン	UAE 大学 医学部	2016 年 11 月 7 日	A、S

寄附分野

2025年4月1日現在
（設置数：6）

分野名	設置期間	寄附者
移植外科学分野	2011年 1月 1日～2025年12月31日	（株）メディカルシステムネットワーク （株）ムトウ
心不全低侵襲先進治療学分野	2018年 9月 1日～2027年 8月31日	（株）ウイン・インターナショナル 日本メドトロニック（株） （株）ほくやく・竹山ホールディングス
心不全遠隔医療開発学分野	2018年 9月 1日～2027年 8月31日	バイオトロニックジャパン（株） （株）SMC
呼吸・循環イノベーティブリサーチ分野	2020年 4月 1日～2026年 3月31日	（株）メディカルシステムネットワーク 持田製薬（株） （株）竹山 （株）カネカメディックス
先端画像診断開発学分野	2020年 4月 1日～2026年 3月31日	（株）フィリップス・ジャパン
未来型遠隔医療開発・実践分野	2023年 6月 1日～2026年 5月31日	北海道厚生農業協同組合連合会

（敬称略）

産業創出分野

2025年4月1日現在
（設置数：2）

分野名	設置期間	設置申込者
膝関節機能再建分野	2019年 6月 1日～2026年 5月31日	オリンパス テルモ バイオマテリアル（株）
バイオマテリアル機能再生分野	2019年 7月 1日～2027年 6月30日	持田製薬（株）

（敬称略）

大学院医学院医科学専攻　修士課程

■医科学コース

医学・生命科学領域の幅広い知識を持って活躍できる高度専門職業人の育成を目的とするコース

全コース必修共通コア科目に加えて、医学研究に必要な知識や技術を演習形式で学ぶ基本医学研究法と口頭発表および論文作成の技術を修得する研究発表技法を履修します。さらに基本医学総論および基本医学研究により、高度専門職業人として必要な幅広い医学知識を修得します。

■公衆衛生学コース（2 年）

社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とするコース

米国の公衆衛生教育協会の認定基準に準拠した「疫学」「生物統計学」「社会行動科学」「保健医療管理学」「環境保健学」の 5 領域の基礎科目を必修科目とし、さらに各自の関心にあった選択科目を組み合わせることで、公衆衛生学の専門家として求められる能力を修得します。

■公衆衛生学コース（1 年）

一定の実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師などを対象として、医療・公衆衛生領域で活躍できる高度専門職業人を 1 年で育成することを目的とするコース

2 年コースと同様の学修を 1 年で行います。修士論文または、特定の課題についての研究の成果に関する審査および試験に合格することにより修了することが可能です。

大学院医学院医学専攻　博士課程

■基盤医学コース

医学・生命科学領域の研究者および教育者の育成を目的とするコース

将来、研究者として自立できるだけの幅広い専門知識と研究に必要な実験のデザインなどの研究手法や研究遂行能力を修得します。さらに専門的知識を学際的な医学・生命科学研究に活用・応用する能力を培います。

■臨床医学コース

優れた臨床技術と研究能力を兼ね備えた臨床医等の育成を目的とするコース

モデル動物や細胞を用いた従来の基礎医学研究手法による研究ではなく、人を対象とした臨床医学研究遂行能力を修得します。大学病院で診ることのできない症例や高度で専門的な診断・検査・治療を行っている特色ある医療機関に設置する「臨床系連携講座」で、専任教員と第一線の臨床医である連携教員による複数指導体制の下、理論と実践を融合した臨床医学研究を行うことも可能です。

■社会医学コース

地域社会や国際的なレベルの健康・安全の維持・向上に幅広い知識と高い技能をもって取り組むことのできる人材の育成を目的とするコース

生物学、生命科学的アプローチとは異なる社会医学的、予防医学的視点から、研究倫理、統計学の基礎と応用、医療情報学、EBM（エビデンスに基づく医療）などの社会医学研究法を修得した上で、公衆衛生学や予防医学分野における研究手法や研究遂行能力を培います。

博士課程における特別プログラム

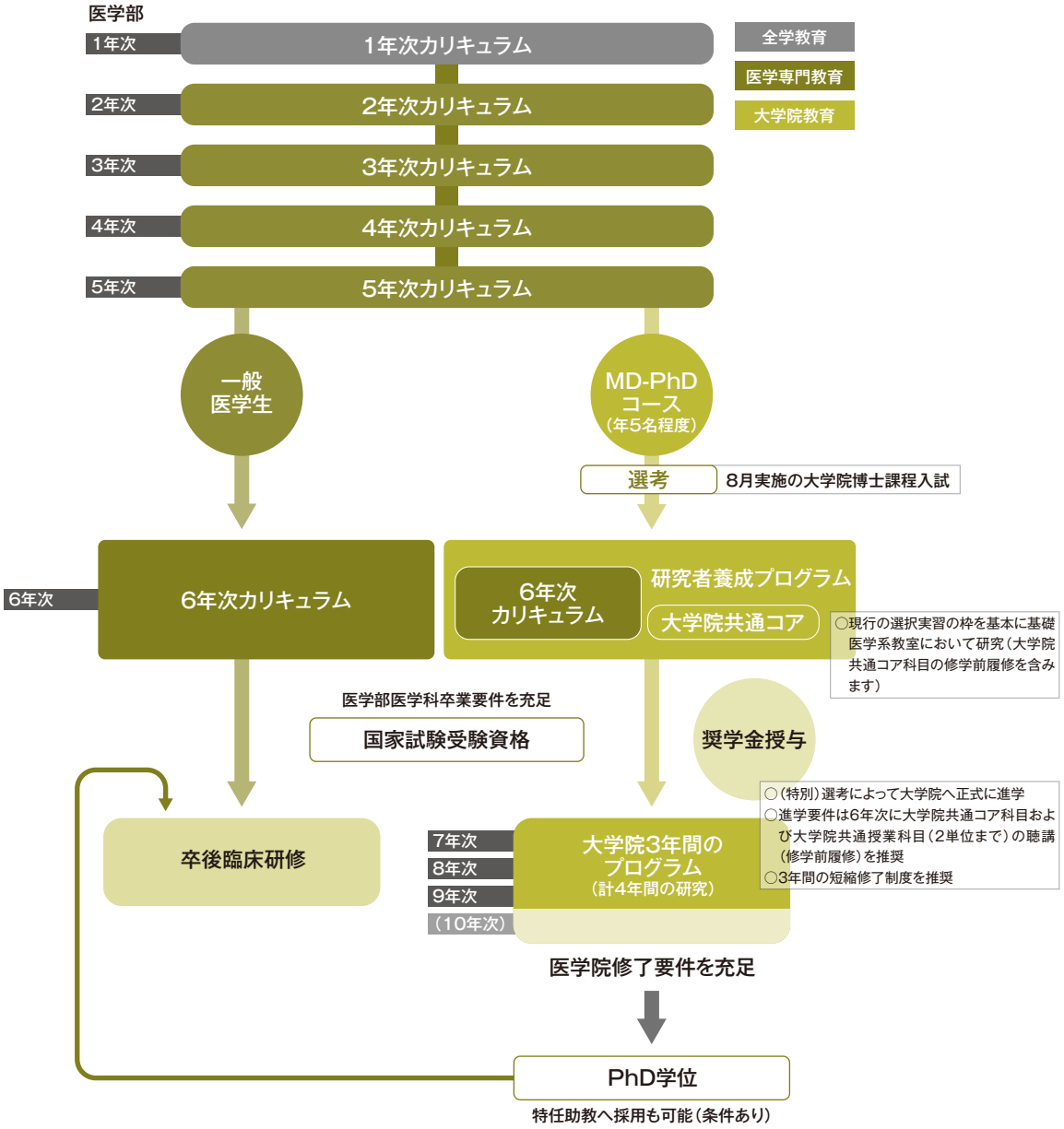
■研究者養成プログラム（MD-PhD コース）

医学研究を志向する医学科学生に対し、早期に研究の機会にふれ、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手研究者（基礎医学分野）を養成することを目的としたこのコースは、**医学科 6 年次に在籍してそのカリキュラムを履修しながら、大学院博士課程必修科目（共通コア科目 8 単位）および大学院共通授業科目（2 単位まで）を履修することができます。**

医学科 5 年次・6 年次に（特別）選考が実施され、原則として返還の必要のない奨学金（大学院博士課程の入学検定料、入学料および大学院入学後計 3 年間の授業料相当分、所属教室には 6 年次の履修に係る経費の助成を目的とした支援金）が給付されます。

特　徴

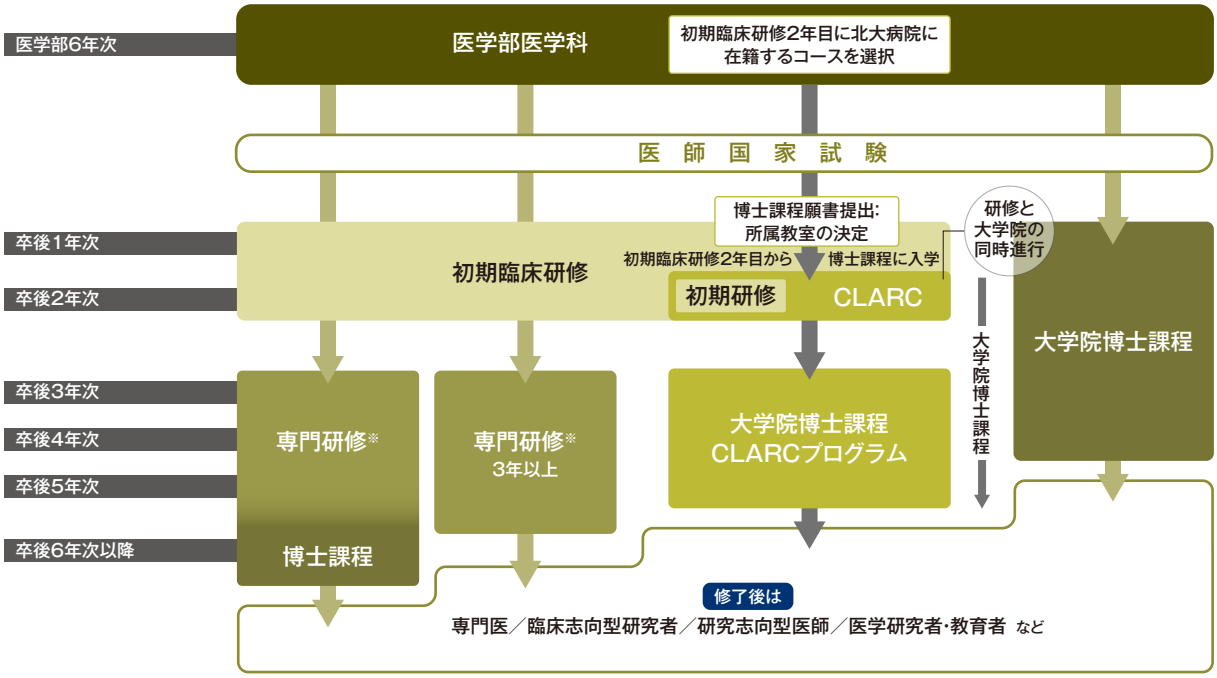
- ●医学部卒業年度は同期生と一緒（医師国家試験受験可能）
- ●入学料・授業料相当分の奨学金給付
- ●PhD 取得後、卒後臨床研修も可能
- ●優れた研究実績をあげた方を、特任助教に採用（条件あり）



■CLARC プログラム CLinic And Research Combination

CLARC プログラムは、**臨床研修２年目に大学院に入学し、臨床研修と大学院での学修を並行して行えるプログラム**です。あくまでも臨床研修を主体とし、平日の 17 時以降に大学院の講義・研究指導を受けます。

このプログラムを選択するためには北海道大学病院の卒後研修プログラムのうち、２年目に北海道大学病院に在籍する研修コースを選択します。地域医療など大学病院外で研修する期間は一時大学院での履修を中断できるので、安心して研修に従事できます（※なお、研修科との調整が必要となります）。また、基礎系教室の教員も指導教員として選択できます。



※新専門医制度（2018 年 4 月開始）による専門研修専攻例
研修の期間・内容は、基本領域（内科や外科など 19 領域）ごとに定められた専門研修プログラムにより異なります
専門医になるためには専門研修を修了する必要があります

■小樽商科大学との大学院連携による MBA 特別コース

医学・生命科学研究と専門職実務の架橋を実践し、社会に有為な人材を早期に養成することを目的としたこのコースでは、通常、修業年限が２年間である経営管理修士（MBA）の学位取得に必要な科目を、北大医学院博士課程３年次在籍時に科目等履修生として単位修得することにより、小樽商科大学入学後に１年間の在籍期間で残りの必要科目を単位修得し、修了することが可能です。

大学院医学院における経済支援

2025 年 5 月 1 日現在

■顕彰・奨学金制度等

顕彰制度・奨学金制度等			詳　細	学部学生	医学院生	
					修士課程	博士課程
顕彰制度	医学院	優秀論文賞	優れた論文を発表した学生に優秀論文賞および副賞（10 万円相当）の授与。	—	○	○
		高桑榮松奨学基金	優れた業績をあげた若手研究者（大学院生を含む）に対する奨励金（8～10 万円〈3～4 名〉）の授与。	—	○	○
		HIROKO の国際学術交流基金	海外の大学または研究機関において、がん研究を行い帰国する研究者（申請時の年齢が満 35 歳以下）へ研究奨励費を支給。	—	—	○
	北海道大学	北海道大学大塚賞	本学における男女参画事業の一環として、研究者を目指す優秀な女子学生育成のために設立。大学院博士課程（博士後期課程および博士一貫）最終年次学生（学業不振による留年者を除く）で、研究者を目指し、当該年度内に修了予定の優秀な女子学生に対して、奨励金（30 万円）を給付。	—	—	○
奨学金制度	医学院	音羽博次奨学基金	学業・人物ともに優秀な学生および外国人留学生に奨学金（15 万円〈各 10 名以内〉）を授与。	○	○	○
		MD-PhD コース在籍者対象	返還の必要のない奨学金（大学院博士課程の入学検定料、入学料および大学院入学後計 3 年間の授業料相当分）が給付されます。	—	—	MD-PhD コース ○
	北海道大学	新渡戸カレッジ	オナーズプログラム大学院カリキュラム履修生を対象に選考の上、奨学金を支給します。選考にあたっては、応募書類の内容等から総合的に判断します。	—	○	—
		北海道大学 EXEX 博士人材フェローシップ	世界や地域の多様で複雑な問題を、解決に向けて取り組むことができる総合力を持った人材を輩出することを目指し、博士学生に研究奨励費（月額 18 万円）及び研究費（年額 40 万円及び追加研究費）を支援します。	—	—	○
		北海道大学次世代 AI 博士人材フェローシップ	未来社会を牽引する次世代 AI 博士人材を輩出することを目指し、博士学生に研究奨励費（月額 30 万円）及び研究費（年額 30 万円及び追加研究費）を支援します。	—	—	○
	その他	日本学生支援機構の制度	最も一般的な奨学金制度です。貸与型の第一種奨学金（無利息）と第二種奨学金（利息付）、給付型奨学金（学部学生のみ）があります。詳細は同機構のウェブサイトをご覧下さい。	○	○	○
		武田科学振興財団医学部博士課程奨学金	わが国の生命科学分野、特に疾病の予防・診断・治療の進歩・発展に貢献するため、医学部医学科出身の基礎医学研究を希望する博士課程の大学院生に奨学金を支給する制度です。 医学部医学科出身で、博士課程に進学して基礎系教室に所属する予定の方に対して、年額 360 万円の奨学金が給付されます。採用には年齢および収入などの条件があります。	—	—	○
特別研究員制度	日本学術振興会		わが国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的として、大学院博士課程在学者（DC1、DC2）および大学院博士課程修了者（PD、RPD）等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する方を、日本学術振興会が「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。本医学院では DC1 に 2 名、DC2 に 3 名が特別研究員として在籍しています（2025 年 4 月 1 日現在）。	—	—	○

■学生支援策

学生支援策		詳　細
修士課程在籍者	ティーチング・アシスタント（TA）制度（医学部医学科における教育補助）	TA 制度は、広い意味の大学教育の一環として導入された、よき大学教員・職業人となるための実地訓練（教育現場の体験）を目的として導入され、採用者には勤務実績に応じ、年間約 7～10 万円が給与として支給されております。
	リサーチ・アシスタント（RA）制度（医学研究院における研究補助）	医学研究院で行われている研究プロジェクト等で、修士課程に在籍する優れた学生に研究補助者として参加してもらい研究体制を充実させるとともに、若手研究者の研究遂行能力の育成を図る制度です。入学後に優れた研究業績をあげた学生に対し、その業績に応じて採用します。採用者には勤務実績に応じ年間約 50 万円が給与として支給されております。
修士課程修了後、博士課程へ進学する方	入学料・検定料免除	本学院修士課程修了見込みの者で、引き続き本学院博士課程へ入学する場合又は国費外国人留学生（文部科学省奨学金受給者）は、博士課程入学料・検定料が不要です。
博士課程在籍者	ティーチング・フェロー（TF）制度（医学部医学科における教育補助）	大学院教育の一環として位置づけられている制度で、TF（TA 業務に従事した経験を有する）として採用された博士課程学生に教員と分担しながら主に医学部医学科で展開されている授業科目を担う機会を提供するものです。担当する授業科目により異なりますが、採用者には勤務実績に応じ年間約 8～12 万円が給与として支給されております。
	ティーチング・アシスタント（TA）制度（医学部医学科における教育補助）	主に医学部医学科で展開されている授業科目の教育補助業務を行うことにより、大学院生の経済的支援および将来、教員・研究者になるためのトレーニングの機会提供、大学教育の充実を目的とした制度です。担当する授業科目により異なりますが、採用者には勤務実績に応じ年間約 7～10 万円が給与として支給されております。
	リサーチ・アシスタント（RA）制度（医学研究院における研究補助）	医学研究院で行われている研究プロジェクト等で、博士課程に在籍する学生に研究補助者として参加してもらい研究体制を充実させるとともに、若手研究者の研究遂行能力の育成を図る制度です。入学後に優れた研究業績をあげた学生に対し、その業績に応じて採用します。採用者には勤務実績に応じ年間約 50 万円が給与として支給されております。
	戦略的リサーチ・アシスタント（SRA）制度（医学研究院における研究補助）	優れた研究業績をあげた学生に対し、研究補助者として雇用（在学中）します。研究業績に応じ雇用時間を決定します。
MD-PhD コース在籍者	特任助教への採用	標準年限修了者（医学科 6 年次に MD-PhD コースに入学し、博士課程進学後 3 年間で修了する者）のうち、一定の条件等を満たした者を特任助教（1 名）に採用します。 ・修了時に本人が第一著者の英文基礎論文 2 編以上（2 編のインパクトファクター合計値が 5 以上：合計値の小数点第一位を四捨五入し 5 となるものも含む）掲載又は受理 ・あるいはインパクトファクター 10.0 以上の学術雑誌に、本人が第一著者の英文基礎論文 1 編以上掲載又は受理

医学部医学科　履修コース

入学から卒業まで

医学部に入学してから卒業までの 6 年は、つぎの 1～4 コースに分けられます。
医学部での学習は一般的な広い視野の獲得から、専門性へと収斂していきます。
各コースの学習内容はつぎのようになります。

1. 医学教養コース（全学教育科目）

医学は自然科学の一分野ですが、医師には多様な価値観を持つ患者さんやその家族と向かい合う幅広い人間性と豊かな人間愛が求められます。これは「医学は文系である」ともいわれる所以でもあります。

入学してからの 1 年は、総合教育部に配属されます。他の理系学部の学生と一緒に多くの教養科目を共に学習することで、幅広い視野と豊かな人間関係を育むなど、人間性を磨き、生涯医学徒であるための土台をつくる大切な時期です。

一見、医学と無関係に思えるような文系の科目、医学以外の理系科目の履修が、後に医学研究や医療を行う場面での豊かな発想力、創造性、広い視点の原動力となります。

2. 基礎医学コース

病気は正常の変化したものと捉えられ、病気の理解は正常の理解に支えられます。

このコースは、2 年次 1 学期から 3 年次 1 学期までの 1 年半に及びます。まず、人体の正常な構造と機能を学び（解剖学、組織学、画像解剖学、生理学）、生命現象を分子・遺伝子レベルから理解します（生化学、薬理学）。また、正常から病気に至る基本的プロセスを学びます（微生物学、免疫学、病理学、基礎応用腫瘍学）。

さらに、人間の健康や病気について、人間集団の相互作用、環境問題、社会制度、予防などの観点からアプローチする社会医学系の科目も学びます（衛生学、公衆衛生学、法医学）。

なお、基礎医学コースから始まる医学専門科目は全科目必修であり、時間割も濃密です。

3. 臨床医学コース

ここでは、様々な疾病について勉強します。

疾病を多面的に把握し、内科学、外科学、専門医学などの臨床医学の基本を学びます。

患者さんを感情のある人間として理解したうえで、その病態、病状検査所見、診断、治療の基本を身につけます。これは次のコースで、実際の患者さんに接する「臨床実習」においてとても大事なステップになります。

臨床医学コースでは、医学研究の入門となる医学研究演習を 1 カ月行います。ここでは、学生が研究室に配属され、実験の方法や考え方を学ぶことで、将来の基礎医学研究者や研究医となるための素養を磨きます。

このコースの最後には、コンピューターによる知識や理解度を測る CBT、さらに医療面接（病歴聴取）と診察などの技能を測る実技試験「臨床実習前 OSCE（Pre-CC OSCE）」の二つの全国共通の共用試験があり、これに合格して臨床実習に進むことになります。

4. 臨床実習コース

このコースでは、臨床実習が開始されます。

4 年次の 2 学期からは北海道大学病院で診療科を回り、病院という臨床の現場で患者さんと医療スタッフに接しながら、これまで各コースで学んできたことを具体的かつ実践的に身につけていきます。この実習と並行して、実習で認識した課題や疑問点について、臨床統合講義で振り返り、総合的な診療能力の基本を幅広く学びます。社会医学の実習も、この時期に行います。

続く 5 年次 2 学期の 6 カ月間は、大学病院や学外の医療機関で 4 週間にわたる長期の診療参加型コア科臨床実習を 6 回行います。

6 年次 1 学期には、一つの診療科や教室あたり 4 週間にわたる長期の診療参加型選択科臨床実習を 3 回行います。

臨床実習コースの仕上げとして、臨床病理学の講義や多職種連携・シミュレーション実習も行います。これらにより、卒業後に役立つ実践的能力も身につけることができます。

このコースの終盤には、卒業試験の一環として全国共通共用試験「臨床実習後 OSCE（Post-CC OSCE）」が行われ、診療技能・態度が評価されます。その後実施される医師国家試験に合格して晴れて医師になります。

医学科の専門教育では、すべてが必須科目となっています。これも他系学部ときわめて異なるところです。これは患者の生命をあずかる医師に対する社会的要請によるものです。したがって、学部教育中にはすべての科目を学び、医師としての基本を身につけることになります。濃密な履修には、このような理由があります。

医学研究院の産学連携研究

医学研究院では産学連携研究活動を積極的に行っています。2024 年度は、研究院全体として合計 204 件の共同研究、受託研究が行われました。

■連携研究センター「フラテ」 ―産学連携研究活動の拠点―

連携研究センター「フラテ」は、生命科学基盤研究の成果を臨床研究へ発展させるための研究を行い、医学・医療および健康維持に貢献することを目的に設置されました。現在三つの研究分野が設立されて研究が進められているとともに、産学連携事業や橋渡し研究の活動もここを拠点に行われています。

■外部資金受け入れ件数

区　分	年　度									
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
共同研究	34	41	30	48	40	34	41	49	47	67
受託研究	124	115	98	105	88	113	108	122	129	137
合　計	**158**	**156**	**128**	**153**	**128**	**147**	**149**	**171**	**176**	**204**

■法人保有特許等

2025 年 4 月 1 日現在

特許

集計は代表発明者の所属による

部局名	保有件数	
	国　内	海　外
医学研究院	15（10）	14（12）

（海外内訳）

国・地域名		保有件数
ヨーロッパ	英国	3（ 3）
	ドイツ連邦共和国	3（ 3）
	フランス共和国	3（ 3）
北米	アメリカ合衆国	4（ 2）
	カナダ	1（ 1）
計		**14(12)**

（　）は共同出願件数で内数

■研究員の採用・受入れ

2025 年 4 月 1 日現在

区　分	資　格	採用・受入れ人数
特別研究員（日本学術振興会）	DC1	2
	DC2	3
	PD	1
合　計		**6**

教育・研究プログラム（交付額 1,000 万円以上）

2025 年 7 月 1 日現在

■次世代のがんプロフェッショナル養成プラン（研究拠点形成費等補助金）（文部科学省）

年　度	事業名	研究担当者
2023～2028	地域に貢献する北海道がんプロ養成プラン	医学研究院　教授　青山　英史

■成長型中小企業等研究開発支援事業（中小企業政策推進事業費補助金）（北海道経済産業局）

年　度	研究開発計画名	研究担当者
2023～2025	脳卒中慢性期患者を対象にした新規再生医療等製品の研究開発	医学研究院　講師　川堀　真人

■戦略的創造研究推進事業（チーム型研究（CREST））（国立研究開発法人 科学技術振興機構）

年　度	研究題目	研究担当者
2023～2028	感覚入力の周期性が生み出す脳機能の理解とその操作	医学研究院　教授　田中　真樹
2025～2026	季節性・非季節性うつ患者の血液検体および遺伝子型・表現型データの取得	医学研究院　教授　加藤　隆弘

■創発的研究支援事業（基金）（創発的研究支援）（国立研究開発法人 科学技術振興機構）

年　度	研究題目	研究担当者
2022～2028	炎症記憶による腸の組織再生とがん化機構の解明	医学研究院　教授　谷口　浩二
2024～2026	未婚男性への教育介入は精液所見と将来の出生力を改善するか	医学研究院　准教授　前田　恵理

■革新的先端研究開発支援事業（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2021～2026	ウイルス感染時の膜とイオンダイナミクスに関する研究開発	医学研究院　教授　大場　雄介

■革新的医療技術研究開発推進事業（産学官共同型）（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2024～2029	安定同位体と多核種 MRI による分子イメージング基盤の創出	医学研究院　教授　工藤　與亮

■難治性疾患実用化研究事業（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2024～2026	表皮水疱症におけるリバータントスキンの診断法確立	医学研究院　准教授　夏賀　健
2025～2027	類天疱瘡の簡便かつ網羅的な新規診断法の確立	医学研究院　教授　氏家　英之
2025～2027	C.acnes 局在と特異的 T 細胞応答反応に基づくサルコイドーシス診療に直結するエビデンス創出と診断や予後予測に有用な新規バイオマーカーと病型分類の開発	医学研究院　教授　今野　哲
2025～2027	先行研究で確立した抗神経抗体測定を用いた自己免疫性小脳失調症の診断と前向きレジストリの作成	医学研究院　准教授　矢口　裕章

■革新的がん医療実用化研究事業（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2023～2025	進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	医学研究院　教授　本間　明宏
2024～2026	局所進行・再発外陰癌・腟癌・子宮頸癌に対する ASP-1929 を用いた光免疫療法の安全性・有効性を評価する単群・非盲検第Ⅱ相試験	医学研究院　教授　渡利　英道
2025～2027	リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	医学研究院　教授　渡利　英道

■肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2023～2025	肝線維化の非侵襲的評価のための血清・肝組織糖鎖バイオマーカーの探索と実用化に関する研究	医学研究院　教授　坂本　直哉
2024～2026	肝細胞・肝非実質細胞・T 細胞指向性 lipid nanoparticle を使用した新規肝線維症治療法開発と治療薬開発プラットフォームの確立	医学研究院　講師　須田　剛生

■肝炎等克服実用化研究事業　B 型肝炎創薬実用化等研究事業（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2025～2027	B 型肝炎ウイルス感染既往者における肝発癌機構の解明と高精度発癌予測法の開発に関する研究	医学研究院　教授　武冨　紹信
2025～2027	B 型肝炎関連疾患のゲノム解析による多様性解明と個別化医療の実現を目指した研究	医学研究院　講師　須田　剛生

■次世代がん医療加速化研究事業（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2024～2025	ハイドロゲルニッシェによるがん多様性制御と医療応用基盤開発	医学研究院　教授　田中　伸哉
2024～2026	免疫チェックポイント阻害剤耐性皮膚癌に対する MHC クラスⅠ誘導技術を用いた新規免疫療法の開発	医学研究院　教授　小林　弘一

■橋渡し研究プログラム（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2023～2025	慢性期脳出血患者に対する自家骨髄間葉系幹細胞とスキャフォールド合剤（セルザイク）の出血腔内投与の安全性・有効性に係る探索的医師主導治験	医学研究院　教授　藤村　幹
2024～2028	O-17 標識水を水トレーサーとして用いた MRI による関節軟骨病変の早期診断を可能とする革新的評価法の確立と治験に向けた実用化研究	医学研究院　准教授　小野寺　智洋

■医療機器開発推進研究事業（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

年　度	研究開発課題名	研究開発代表者
2025～2026	小児肛門機能障害に対する機能評価・治療用医療機器開発の臨床評価準備	医学研究院　特任助教　荒　桃子

■文部科学省特別経費

年　度	学内連携部局	事業名	研究開発代表者
2021～2025	医学研究院	多職種連携による死因究明の推進と総合的人材育成プロジェクト	—

解剖実績

2025 年 4 月 1 日現在

■系統解剖

区　分	年　度													
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
医学部実習体	40	43	45	43	41	38	38	37	37	33	37	35	38	35
歯学部実習体	16	15	17	16	17	17	14	14	17	12	12	12	12	13
外科手術手技研修	—	—	—	—	—	3	10	16	14	10	10	9	4	13

■病理解剖

区　分	年　度													
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
解剖件数	36	45	34	24	36	34	23	30	19	15	13	16	22	15

■法医解剖

区　分	年　度													
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
解剖件数	193	152	132	351	282	300	419	368	299	369	377	389	385	463

オートプシーイメージング（Ai）実績

2025 年 4 月 1 日現在

区　分		年　度							
		2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
CT 検査件数	法医学における異状死亡例	762	951	965	845	1,137	1,370	1,306	1,445
	画像診断学における病院死亡例	18	12	12	9	10	14	20	21
合　計		**780**	**963**	**977**	**854**	**1,147**	**1,384**	**1,326**	**1,466**

土地・建物

2025年7月1日現在

■医学研究院・医学院・医学部医学科敷地

区　分	延面積(m²)
敷地面積	39,418
納骨堂（豊平区平岸4条15丁目3の19番地）	160
メディカルゾーン	151,814

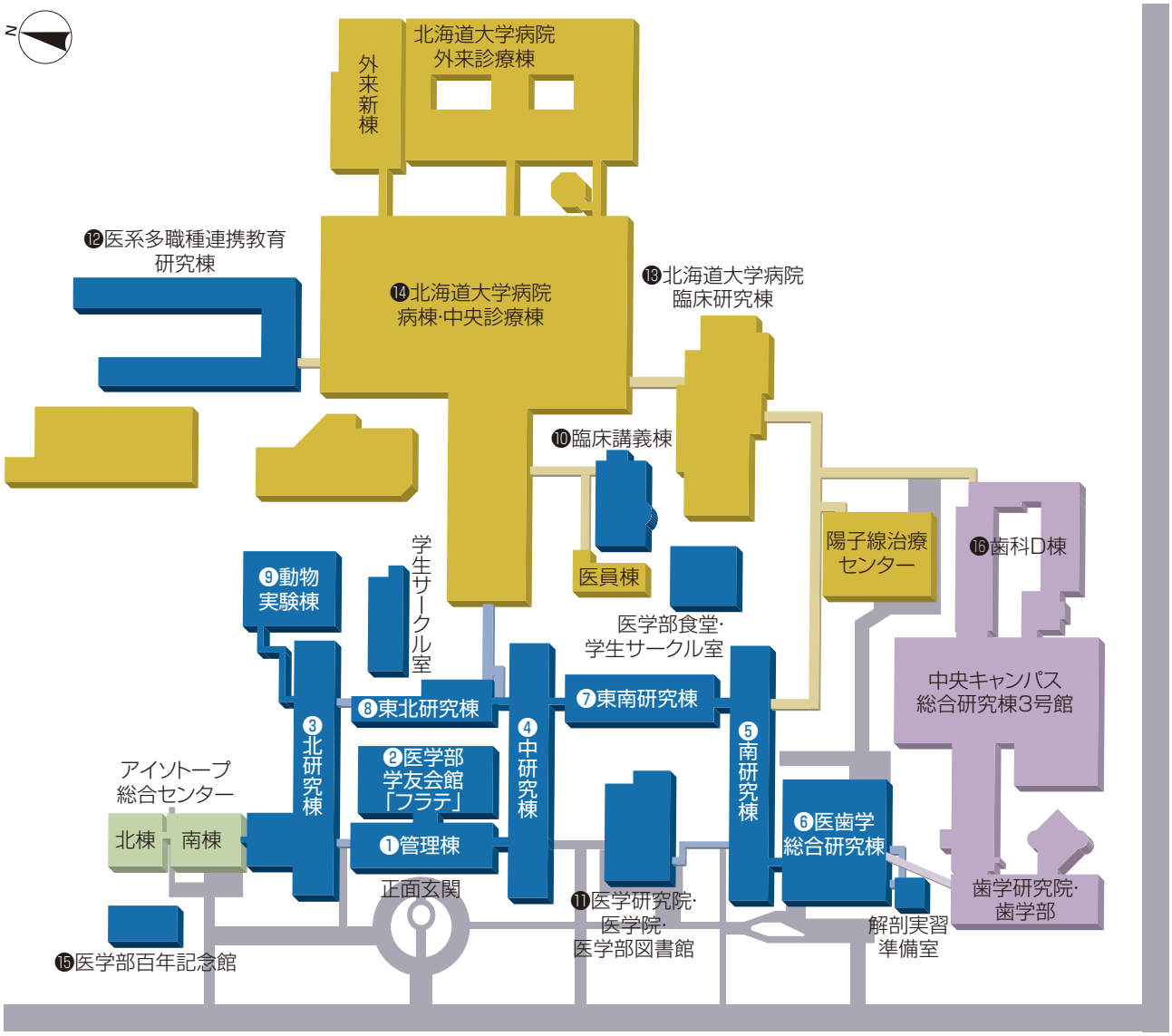
■医学研究院・医学院・医学部医学科建物面積（施設部 実態調査図面による）

建物名称	建面積(m²)	延面積(m²)
管理棟	839	1,623
医学部学友会館「フラテ」	1,086	2,174
北研究棟	1,482	1,728*1
中研究棟	1,113	5,979
南研究棟	1,175	5,928
東南研究棟	840	4,272
東北研究棟	558	3,239*2
医歯学総合研究棟	1,661	12,574

*1 遺伝子病制御研究所 5,725m² 除く　*2 大学院医理工学院 179m² 除く

建物名称	建面積(m²)	延面積(m²)
附属動物実験施設	899	5,040
医学研究院・医学院・医学部図書館	486	2,600
臨床講義棟	625	1,277
学生サークル室	373	373
医学部食堂	460	460
医系多職種連携教育研究棟	1,662	6,198
医学部百年記念館	638	744
その他	359	355
合　計	**14,256**	**54,564**

建物配置図



各棟・各階概要

2025 年 7 月 1 日現在

＊医学研究院の寄附分野　■産業創出分野

❶ 管理棟

1 階	医学系事務部
	中会議室
2 階	2-1 共通セミナー室
	2-2 共通セミナー室
	2-3 共通セミナー室

❷ 医学部学友会館「フラテ」

1 階	大研修室／ホール
2 階	特別会議室／ホール

❸ 北研究棟

1 階	医化学教室
	分子生物学教室
2 階	解剖発生学教室
	組織細胞学教室
	がん制御学教室
3 階	免疫生物学教室
	分子神経免疫学教室
	幹細胞生物学教室
4 階	生命分子機構教室

❹ 中研究棟

1 階	神経内科学教室
	心臓血管外科学教室
	医学教育・国際交流推進センター／国際連携部門
	医学教育・総合診療医学教室
2 階	公衆衛生学教室
	医療政策評価学教室
	衛生学教室
3 階	法医学教室
	免疫学教室
	3-1 共通セミナー室
4 階	腫瘍病理学教室
	統合病理学教室
	医理工学グローバルセンター
5 階	神経生理学教室
	細胞生理学教室
	医学統計学教室
	5-1 共通セミナー室
	5-2 共通セミナー室

❺ 南研究棟

1 階	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
2 階	消化器内科学教室
	麻酔・周術期医学教室
	小児科学教室
3 階	脳神経外科学教室
	眼科学教室
	皮膚科学教室
4 階	腎泌尿器外科学教室
	産婦人科学教室
	整形外科学教室②
5 階	消化器外科学教室Ⅰ
	移植外科学分野＊
	消化器外科学教室Ⅱ
	整形外科学教室①

❻ 医歯学総合研究棟

B1,2,6 階	中央研究部門
1 階	死因究明教育研究センター①
8 階	実験生物部門

❼ 東南研究棟

1 階	放射線治療学教室
	画像診断学教室
2 階	救急医学教室
	呼吸器内科学教室
3 階	精神医学教室
	免疫・代謝内科学教室
4 階	循環器内科学教室
	形成外科学教室
5 階	神経薬理学教室
	細胞薬理学教室

❽ 東北研究棟

1 階	腫瘍内科学教室
2 階	血液内科学教室
3 階	病原微生物学教室
	死因究明教育研究センター②
5 階	神経生物学教室
	整形外科学教室③
	技術支援部

❾ 動物実験棟

B1-5 階	附属動物実験施設

❿ 臨床講義棟

1 階	Shikishima Lecture Room（第 3 講堂）
	第 4 講堂
2 階	臨床大講堂

⓫ 医学研究院・医学院・医学部図書館

3 階	第 1 講堂
	第 2 講堂

⓬ 医系多職種連携教育研究棟

南棟 1 階	スポーツ医科学教室
東棟 1 階	医療イノベーションセンター②
2-3 階	クリニカルシミュレーション推進部門
3 階	ヘルスデータサイエンス教室
3-4 階	医療イノベーションセンター①
4 階	レギュラトリーサイエンス教室
5 階	セミナー室
西棟 2-3 階	医系部局　学部生等スペース

⓭ 北海道大学病院臨床研究棟

3 階	乳腺外科学教室
	リハビリテーション医学教室
	呼吸器外科学教室

⓮ 北海道大学病院病棟・中央診療棟

2 階	分子診断病理学教室

⓯ 医学部百年記念館

1 階	同窓会事務室／ホワイエ／大会議室
2 階	多目的ホール／小会議室

⓰ 歯科 D 棟

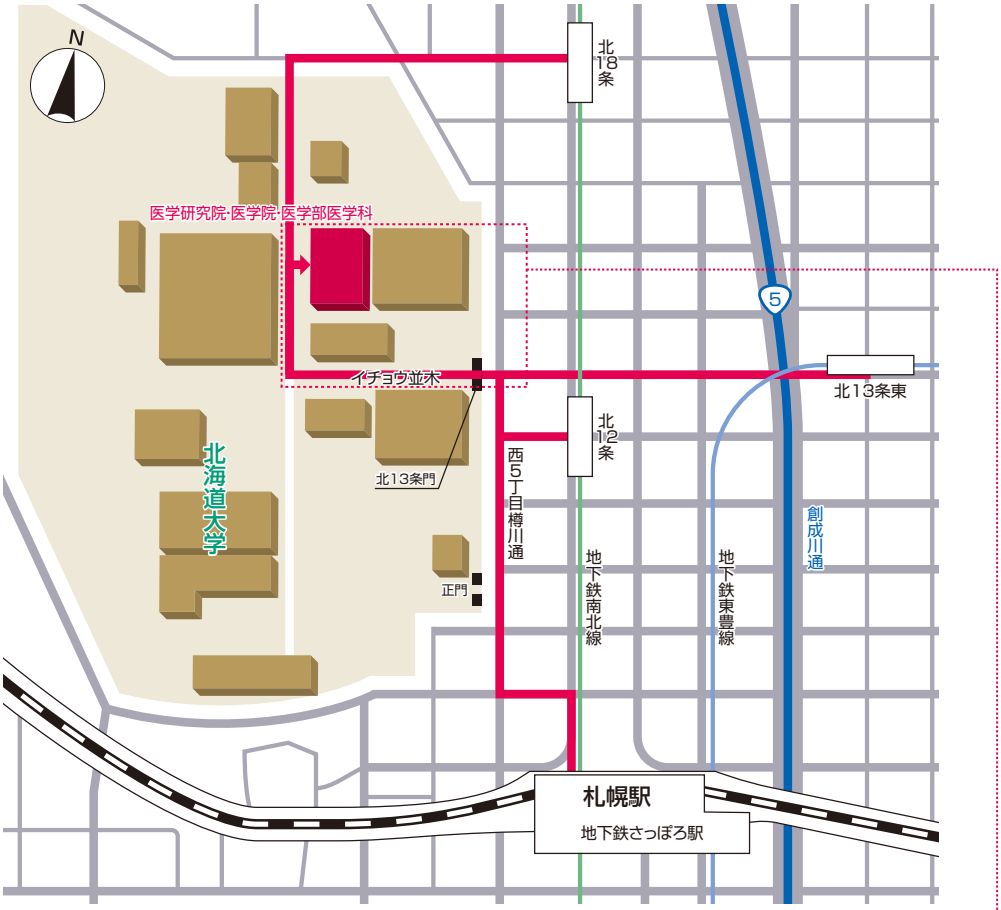
1 階	がんゲノム医療学教室
3 階	臨床遺伝学・医療倫理学教室

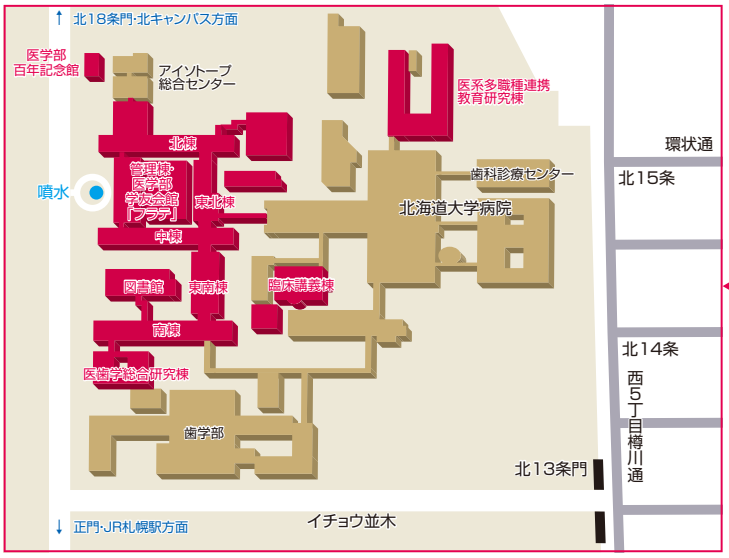
北キャンパス総合研究棟 2 号館

3 階	整形外科学教室 （バイオマテリアル機能再生分野■）

札幌キャンパス施設配置図

アクセス





■敷地内のご案内

北 13 条門からイチョウ並木を通り、T 字路を右折。噴水のあるロータリーが目印です。管理棟に受付がありますのでお問い合わせください。

■交通のご案内

《ＪＲ》

札幌駅下車…… 徒歩約 20 分

《バス》

北大病院前下車…… 徒歩約 10 分

《地下鉄》

南北線北 12 条駅下車 …… 徒歩約 10 分
南北線北 18 条駅下車 …… 徒歩約 10 分
東豊線北 13 条東駅下車 …… 徒歩約 15 分

《新千歳空港～札幌駅》

ＪＲ利用…… 約 40 分
バス利用…… 約 80 分

北海道大学医学部は2019年
創立100周年をむかえました

北海道大学
大学院医学研究院／大学院医学院／医学部医学科
HOKKAIDO UNIVERSITY
Faculty of Medicine／Graduate School of Medicine／School of Medicine

〒060-8638　札幌市北区北 15 条西 7 丁目
Tel: 011-716-2111　（北海道大学代表）
Fax: 011-717-5286
https://www.med.hokudai.ac.jp

北大医学部　検索

2025.9.12